

八尾市文化財調査報告48
平成14年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書

2003年3月

八尾市教育委員会



はじめに

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、生駒山地の山麓部から西に広がる大阪平野の東部にかけての範囲を有しています。市域の平野部は、古くは河内湾、河内潟、河内湖に面し大和川をはじめとする多くの河川によって肥沃な土壤が形成されており、縄文時代から連続と遺跡が存在しています。また、生駒山地の山麓部や羽曳野丘陵上には旧石器時代から連続と遺跡が存在しており、当市は遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書には当教育委員会が平成14年度に(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の個人住宅建設、民間の各種事業の工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。

今後市内の貴重な埋蔵文化財が市民の方々をはじめ、多くの人々に親しまれる形で、保存・活用していくことが、重要な課題となるでしょう。本書がその役割の一助を担うことができるれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にご理解、ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

八尾市教育委員会

教育長 森 卓

例 言

1. 本書は、平成14年度の国庫補助事業(市内遺跡)として、八尾市内で実施した発掘調査の報告書である。平成13年度実施分についても一部掲載している。
2. これらの調査は、八尾市教育委員会が(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施したものである。
3. 本書の作成にあたっては、八尾市教育委員会(吉田野乃)・(財)八尾市文化財調査研究会(岡田清一、高萩千秋、坪山真一、成海佳子、西村公助、樋口 薫)の各調査担当者が執筆を行い、文書は各報告の文末に記した。
4. 本年度の調査で本書に概要を所取できなかった分について卷末に一覧表を掲載した。
5. 本書の編集は、八尾市教育委員会生涯学習部文化財課 藤井淳弘が行った。

本文目次

調査地位置図 I ~ VI

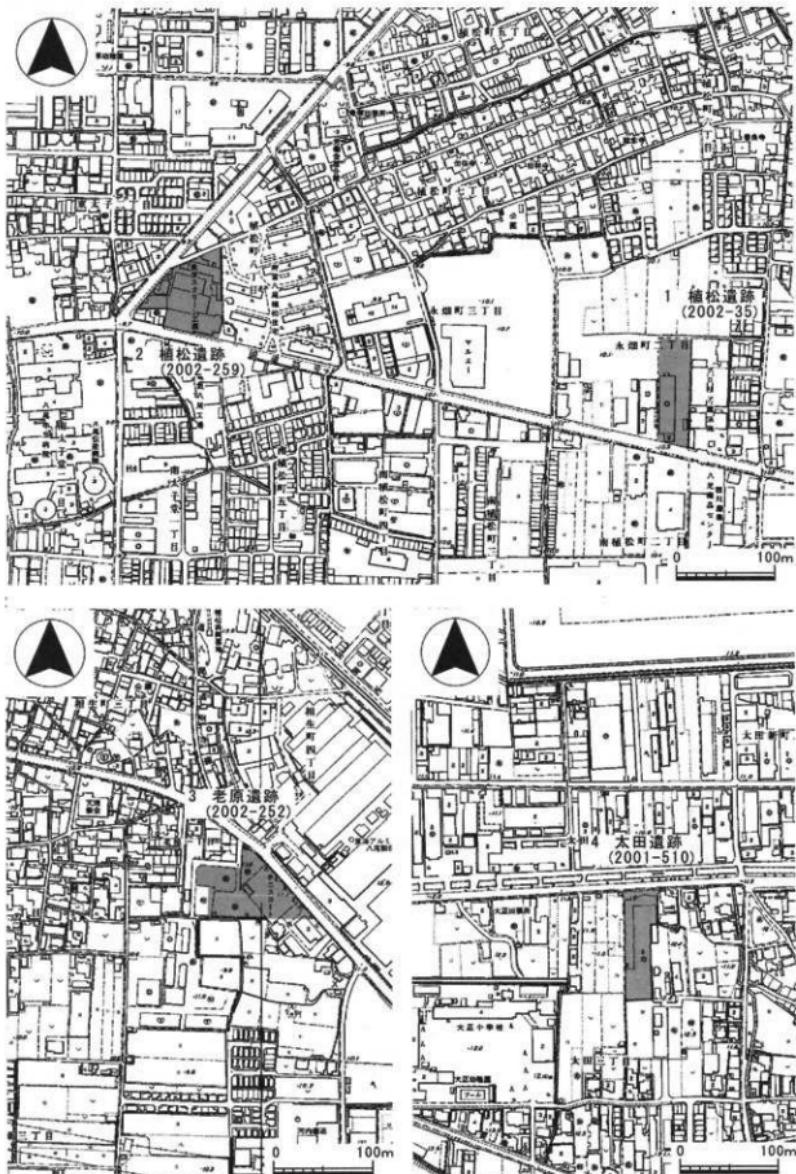
1 植松遺跡(2002-35)の調査	1
2 植松遺跡(2002-259)の調査	2
3 老原遺跡(2002-252)の調査	3
4 太田遺跡(2001-510)の調査	3
5 太田川遺跡(2001-451)の調査	5
6 太田川遺跡(2002-281)の調査	5
7 恩智遺跡(2001-352)の調査	6
8 恩智遺跡(2002-181)の調査	7
9 恩智遺跡(2002-224)の調査	7
10 楽音寺遺跡(2002-293)の調査	8
11 木の本遺跡(2002-364)の調査	8
12 久宝寺遺跡(2002-145)の調査	11
13 久宝寺遺跡(2002-199)の調査	12
14 久宝寺遺跡(2002-285)の調査	13
15 郡川遺跡(2002-65)の調査	14
16 郡川東塚古墳(2002-153)の調査	15
17 小阪合遺跡(2002-294)の調査	17
18 成法寺遺跡(2002-266)の調査	17
19 神宮寺遺跡(2001-64)の調査	18
20 神宮寺遺跡(2002-280)の調査	22
21 太子堂遺跡(2002-204)の調査	22
22 高安古墳群(2001-213)の調査	23
23 高安古墳群(1999-586)の調査	31
24 高安古墳群(2002-236)の調査	31
25 東郷遺跡(2002-238)の調査	32
26 東郷遺跡(2002-176)の調査	34
27 中田遺跡(2002-67)の調査	36
28 花岡山遺跡(2002-198)の調査	37
29 水越遺跡(2002-79)の調査	38
30 水越遺跡(2002-82)の調査	39
31 八尾南遺跡(2001-358)の調査	40
32 八尾南遺跡(2001-491)の調査	41
33 弓削遺跡(2002-66)の調査	44
34 弓削遺跡(2002-23)の調査	45

調査一覧表 平成13年度2月・3月

平成14年度4月・5月(市教委実施分)

図版目次

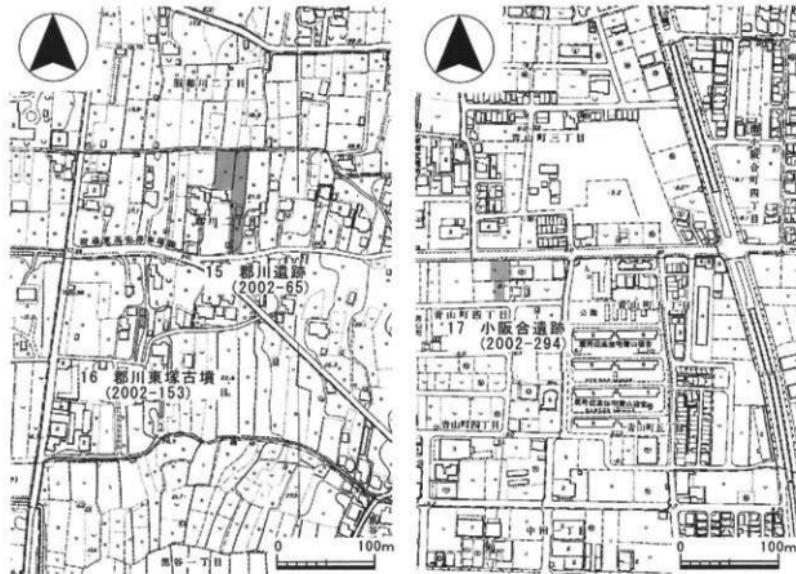
図版 1 植松遺跡(2002-35)の調査	
植松遺跡(2002-259)の調査	
老原遺跡(2002-252)の調査	
図版 2 太田遺跡(2001-510)の調査	
太田川遺跡(2001-451)の調査	
太田川遺跡(2002-281)の調査	
恩智遺跡(2001-352)の調査	
恩智遺跡(2002-181)の調査	
恩智遺跡(2002-224)の調査	
樂音寺遺跡(2002-293)の調査	
図版 4 木の本遺跡(2002-364)の調査	
図版 5 久宝寺遺跡(2002-145)の調査	
久宝寺遺跡(2002-199)の調査	
久宝寺遺跡(2002-285)の調査	
郡川遺跡(2002-65)の調査	
図版 6 郡川東塚古墳(2002-153)の調査	
小阪合遺跡(2002-294)の調査	
成法寺遺跡(2002-266)の調査	
図版 7 神宮寺遺跡(2001-64)の調査	
神宮寺遺跡(2002-280)の調査	
太子堂遺跡(2002-204)の調査	
高安古墳群(2001-213)の調査	
図版 9 高安古墳群(2001-213)の調査	
高安古墳群(1999-586)の調査	
図版 10 高安古墳群(2002-236)の調査	
東郷遺跡(2002-238)の調査	
図版 11 東郷遺跡(2002-176)の調査	
中田遺跡(2002-67)の調査	
花岡山遺跡(2002-198)の調査	
水越遺跡(2002-79)の調査	
図版 12 水越遺跡(2002-82)の調査	
八尾南遺跡(2001-358)の調査	
図版 13 八尾南遺跡(2001-491)の調査	
八尾南遺跡(2001-491)の調査	
弓削遺跡(2002-66)の調査	
弓削遺跡(2002-23)の調査	
図版 14 八尾南遺跡(2002-23)の調査	



第1図 調査地位置図 I ($S=1/5000$)



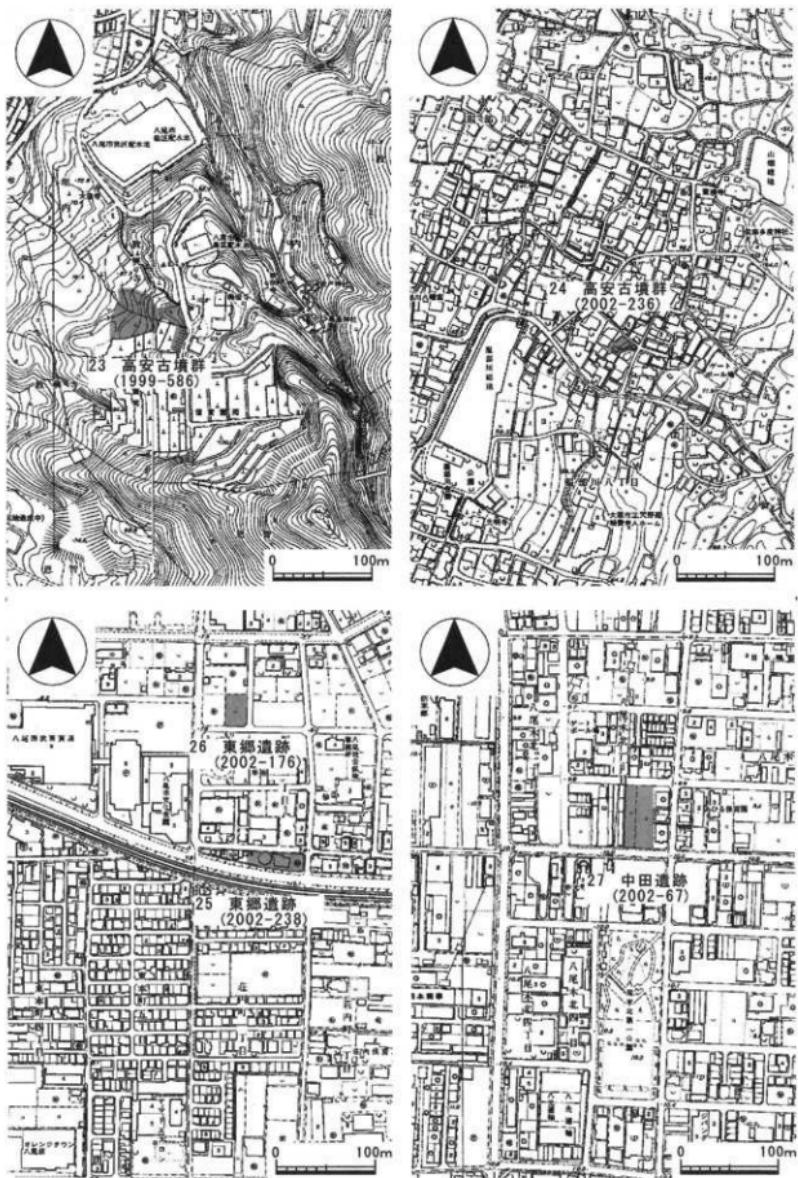
第2図 調査地位置図Ⅱ (S=1/5000)



第3図 調査地位置図Ⅲ (S=1/5000)



第4図 調査位置図IV (S=1/5000)



第5図 調査地位置図V (S=1/5000)



第6図 調査位置図VI (S=1/5000)

1 植松遺跡(2002-35)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市水畠町2丁目47番2

3. 調査期間：平成14年7月18日

4. 調査面積：21.6m²

5. 調査方法：防火水槽部分に5.4×4mの調査区を設定し、現地表下約3.1mまで機械および人力で掘削し調査を行った。

なお、今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高(調査地の南側国道25号線上T.P.+10.3m)を使用した。

6. 調査概要：現地表面はT.P.+10.1~10.2mで、以下3.1m前後までに11層の地層を確認した。1層は盛土で、2層は近年まで耕されていた作土である。3層および4層は粘土で、4層からは鎌倉時代初頭頃の瓦器碗や土器器の破片が少量出土したが、上面から切り込む遺構の検出はなかった。5層は細粒シルト混粘土で、上面から切り込む溝1条(S D101)を検出した。

S D101は調査区東西側で検出した。検出長2.6mを測る。幅約0.4~0.5mで、南北方向に直線に伸びている。深さは0.05~0.1mを測る。埋土は灰色細粒砂混粘土の單一層で、瓦器の碗が少量出土した。

さらにT.P.+7.1m前後まで掘り下げたが遺構の検出および遺物の出土は認められなかった。7層以下11層まではシルトや粘土がほぼ水平に堆積した。

出土遺物

1は4層から出土した瓦器の碗である。この瓦器碗は器壁が薄く、内面ミガキを施し、外表面はナデている。

2はS D101から出土した瓦器の碗である。この瓦器碗は器壁が厚く、内外面ともにやや密なミガキを施している。

7.まとめ：5層上面で検出した溝と同様の遺構は、今回の調査地の西隣で行った市教委昭和55年度調査(1983高木)で検出しておらず、耕作に伴う素掘り溝の可能性があるとされている。このことから本調査地付近には平安時代から鎌倉時代にかけて生産域が存在していた可能性が高いと思われる。(西村公助)

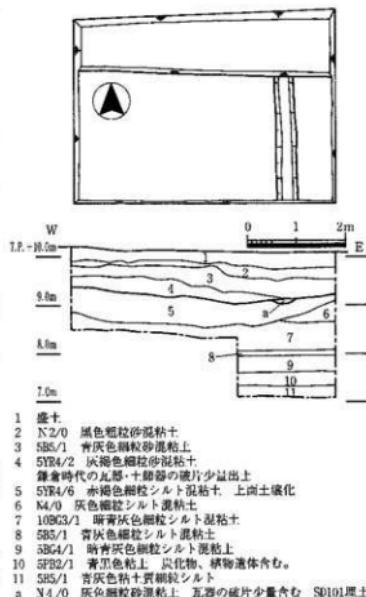
参考文献

・高木真光 1983「第2章 植松南遺跡発掘調査概要報告」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告書1980・1981年度」八尾市教育委員会

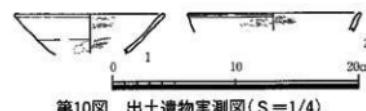
・高萩千秋 1998「I 植松遺跡(第3次調査)」「財團法人八尾市文化財調査研究会報告59」財團法人八尾市文化財調査研究



第8図 調査区
設定図
(S=1/2000)



第9図 平断面図(S=1/100)



第10図 出土遺物実測図(S=1/4)

2 植松遺跡(2002-259)の調査

- 調査名：店舗(バチンコ店)建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市植松町8丁目20番、24番、27番、及び35番
- 調査期間：平成14年10月4日
- 調査面積：42m²

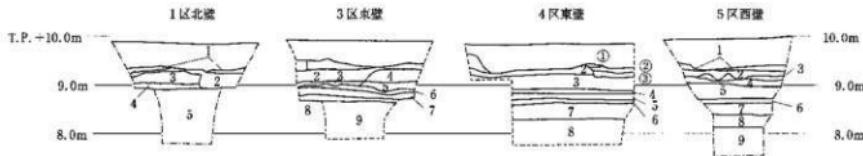
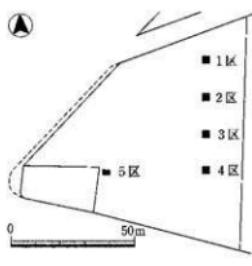
5. 調査方法：店舗予定地に4か所(3×3m)、防火水槽予定地に1か所(2×3m)、計5か所を調査した。前者は北から1～4区、後者は5区と呼んだ。現地表下1.2～1.5mまでを上層調査とし、流水堆積層の深さを確認する目的で、以下1m程度を掘削した。高さの基準は、調査地から西約250m地点の大阪府水準点(T.P.+9.43 第11図 調査区設定図(S=1/2000)m)から移動した。

6. 調査概要：現地表面の高さはT.P.+9.9～10.0m、盛土は0.2～0.4mの厚さがあり、旧地表面の高さはT.P.+9.5～9.7mを測る。以下には作土・床土等にあたる搅拌をうけた層が2～4層堆積し、流水堆積層に至る。

1区ではT.P.+9.0m以下の5層が流水堆積層にあたり、深さ約1.2mまで確認した。この流水堆積層は、2区～5区では中間に粘土質シルトの堆積があり、上下2層に分かれ。2区～4区では上層がT.P.+9.3～9.4m以下(層厚0.4～0.5m)、下層はT.P.+8.3～8.7m以下である。5区では上層がT.P.+9.0～9.2m以下(層厚0.8m)、下層はT.P.+8.1m以下である。いずれも下層の流水堆積層は1m前後の厚さまでしか確認していない。このうち、2区ではT.P.+9.35m以下に流水堆積層4・5層があり、それを切って2・3層が盛られていることを確認した。また、4区では、2層上面から切り込む東西方向の溝状の落ち込みを検出している。出土遺物は、搅拌をうけた層や流水堆積層から、磨耗した土器部・陶磁器・瓦の極細片が極少量出土している。

7. まとめ：調査区全域にわたって流水堆積層の堆積が認められた。

(成海佳子)

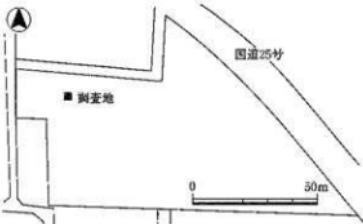


1区	2区	4区	5区
1 10BG3/1階青灰色中層混砂 ルト	1 10YRS/6黄褐色中層混砂粒砂 ルト	1 2.5Y/2明灰黒粒砂混砂質 シルト	1 2.5Y/1黄褐砂質シルトに 2.5Y/1明灰黒粒砂十、2.5Y/2 灰白粘土質シルトのプロフ ト
2 5GY4/1階オリーブ灰中層混砂 質シルト(?)	2 10GY5/4/5黄褐色中層粒砂 のブロック	2 2.5Y/3/4黄褐粗粒砂 層砂質シルト	2 10TR3/4階中層混砂質シル ト
3 5GY4/1階オリーブ灰～5Y4/4 断面オーリーブ砂質シルト	3 10YRS/5黄褐色中層粒砂に 10YR5/2灰黄褐粘土質シルトの のブロック	3 2.3Y/4黄褐粗粒砂 土質シルト	3 2.5Y/2階灰黒～2.5Y/1基層 粘土質シルト混砂質のプロフ ト
4 5GY4/1階オリーブ灰～5Y4/4 灰オーリーブ砂質シルトに 7.5Y5/1灰粘土のブロック	4 10TR6/6明黄褐色粗粒砂 5 10TR6/6明黄褐色中層砂 6 10TR6/6明黄褐色粗粒砂 7 10TR4/1階灰黒シルトの 8 10TR4/1階灰黒シルトの 9 10GY6/6明黄褐色～10GY6/1綠 灰粗粒砂～	4 5GY4/1階オーリーブ灰粗粒砂 混砂土質シルト 5 5GY4/1階オーリーブ灰粗粒砂 混砂土質シルト(中層多量) 6 5GY4/1階オーリーブ灰粗粒砂 混砂土質シルト(中層多量) 7 5GY4/1階灰黒シルトの 8 2.5Y/2灰黄粗粒砂～	4 2.5Y/2階灰黒～2.5Y/1黄灰 砂質シルト～粗粒砂のプロフ ト 5 5BG5/1青灰粗粒砂 6 5GY/1階灰粘土質シルト 7 5BG7/1明青灰、N7灰白粗粒砂 8 N3階中層灰黒粗粒砂～ 9 10GY6/1階灰黒粗粒砂～

第12図 断面図 (S=1/100)

3 老原遺跡(2002-252)の調査

1. 調査名：店舗建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市老原1丁目13番、15番及び16番、17番、19番、20番、22番、24番の各一部
3. 調査期間：平成14年10月3日
4. 調査面積：9m²
5. 調査方法：耐震性貯水槽建設予定地に3m四方の調査区を設定した。現地表下3.5mまでの調査予定であったが、3.0m前後で重機での掘削が不可能となり、湧水も多く、危険な状態となつたため、それ以下の掘削はしていない。高さの基準は、南西約100m地点の老原遺跡第10次調査(OH2002-10)地の板ペンチャマーク(T.P.+10.747m)から移動した。
6. 調査概要：現地表下2.6mに及ぶ擾乱があり、東端の現地表下1.5m～3.0m(T.P.+10.2～8.9m)間で1～4層を確認した。1・4層は流水堆積層である。4層直上では、奈良時代以降の土師器片が若干出土した。
7. まとめ：前述の老原遺跡第10次調査では、2枚の流水堆積層に挟まれた平安時代～江戸時代に相当する3枚の水田作上層を確認しており、当地の第1層～第4層がそれらに対応する可能性がある。



第13図 調査区設定図(S=1/2000)



第14図 柱状図
(S=1/100)

4 太田遺跡(2001-210)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市太田3丁目148-1, 154, 154-2
3. 調査期間：平成14年5月22日
4. 調査面積：21.38m²
5. 調査方法：防火水槽(規模3.6×3.7m)1箇所と人孔(規模2.0×2.0m)2箇所の調査を行なった。防火水槽を第1区、人孔を北から第2区・第3区と呼称する。現地表面から深さ約2.0～3.1mまで機械と人力を併用し掘削を行い、調査を実施した。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高(調査地の西側歩道上T.P.+11.8m)を使用した。

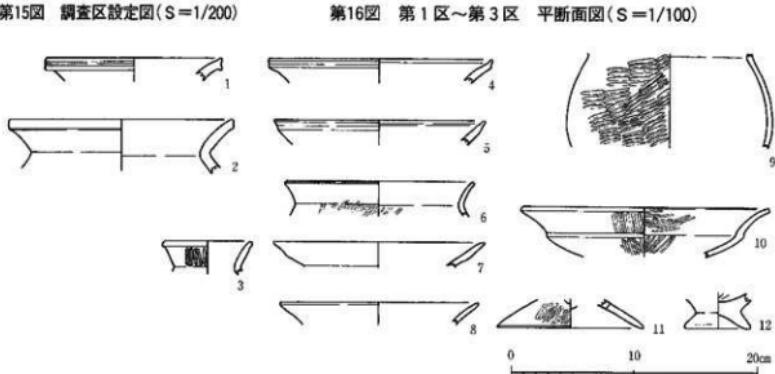
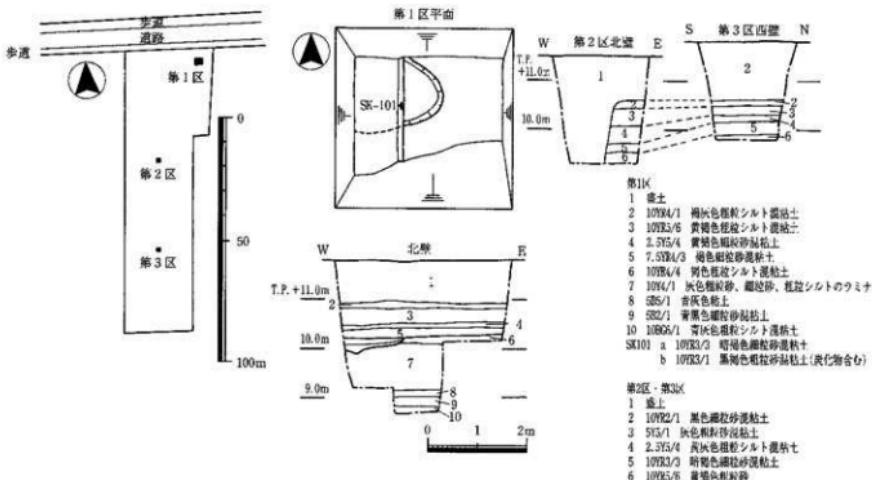
6. 調査概要：第1区の6層上面で古墳時代中期～後期頃の遺構(土坑1基 SK101)を検出した。SK101は調査区北西側で検出した。遺構の北西側は調査区外に広るため、全容は不明である。検出した平面形状は半楕円形で、東西幅約0.8m以上、南北幅約1.4m以上を測る。深さは0.3mで、北西側には窪みがある。埋土は上下2層に分かれ、上層からは土師器や須恵器の破片が少量出土した。

さらに掘り下げると、T.P.+8.8m前後で弥生時代後期後半頃の遺物を含む粘土層(9層)を確認した。第2区と第3区は6層上面で調査を行なったが遺構の検出はなかった。

出土遺物

【第1区】5層からは土師器の破片が出土した。土師器の時期は古墳時代後期以後と思われる。

SK101からは土師器および須恵器の破片が出土した。この遺物は古墳時代中期～後期頃と思われる。9層からは弥生時代後期の土器の破片が出土した。1～3は壺である。1は端面に凹線を施す。3は外面に縱方向のミガキを施す。4～9は甕である。7の外面には煤が付着している。9は外面に右上がりのタタキを全面に施す。10・11は高杯である。10は屈曲し外反する口縁部。11は裾部に、凹形のスカシ孔がある。12は鉢か壺の底部で、ハの字に開く上げ底である。内面にヘラ状工具による痕跡がある。



【第2区】【第3区】5層からは土師器の破片が出土した。土師器の時期は古墳時代後期以後と思われる。7.まとめ：第1区で検出した古墳時代中期～後期頃の遺構や第2区、第3区で確認した遺物を含む層は、八尾市教委調査(93-81)および同市教委調査(96-266)で確認していることから、同時代の集落が本調査地周辺に存在している可能性が高いと思われる。

また、第1区の9層内から出土した遺物は、同市教委調査(96-266)で検出した遺構内出土の遺物と同時期と思われ、今回の調査地にも同時期の集落が存在していた可能性が高いと思われる。(西村)

参考文献

- ・吉田野力 1994「4. 太田遺跡(93-081)の調査」『八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告29 平成5年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・酒 純 1997「3. 太田遺跡(96-266)の調査」『八尾市内遺跡平成8年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告36 平成8年度国庫補助事業 八尾市教育委員会

5 太田川遺跡(2001-451)の調査

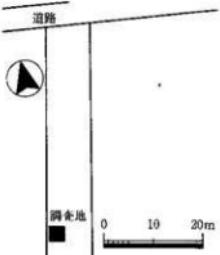
- 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市水越1丁目76-2, 76-3
- 調査期間：平成14年8月22日
- 調査面積：9 m²
- 調査方法：浄化槽部分に3×3 mの調査区を設定し、現地表下約3.0 mまで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している値（調査地の北側道路上T.P.+14.2 m）を使用した。

6. 調査概要：現地表面はT.P.+14.3 m前後で、以下9層の地層の堆積を確認した。1層は盛土で、厚み約1.0 mを測る。5～7層は砂層の流水堆積である。8層は植物遺体を含む地層で、遺物の破片が極少量出土した。なお5～7層内から湧水が多くあり、壁面崩壊が相次ぎ、危険と判断したため、平面的な調査は行えなかった。

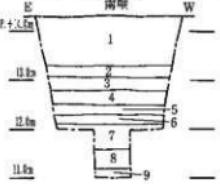
7.まとめ：8層には弥生土器と思われる破片が出土したことから、今回の調査地周辺に集落が存在している可能性があると考える。（西村）

参考文献

- 原出昌則 1983[第3章太田川遺跡発掘調査概要報告]『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和56・57年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告3 財團法人八尾市文化財調査研究会
- 坪田真一 1994[Ⅲ 太田川遺跡(第1次調査)]『財團法人八尾市文化財調査研究会42』財團法人八尾市文化財調査研究会



第18図 調査区設定図 (S=1/1000)



第19図 断面図 (S=1/100)

6 太田川遺跡(2002-281)の調査

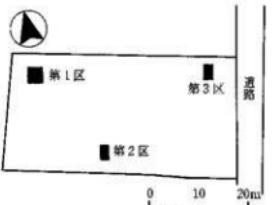
- 調査名：倉庫(産業廃棄物積替え作業場)建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市水越1丁目89, 90
- 調査期間：平成14年12月17日
- 調査面積：18 m²

5. 調査方法：倉庫基礎部分に2箇所(西側を1区、東側を2区)と防火水槽部分に1箇所(第3区)の調査区を設定し、現地表下約3.0 mまで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している値(調査地の北側道路上T.P.+12.5 m)を使用した。

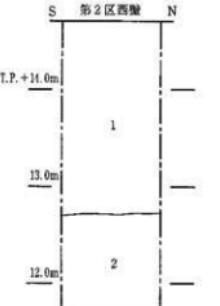
6. 調査概要：【第1区・第3区】現地表の標高はT.P.+14.7 m前後である。以下3 mまでは盛土で、本来の地層は確認できなかった。

【第2区】現地表の標高はT.P.+14.7 m前後である。以下2 mまでは盛土、さらに下1 mまでは粗粒シルト質粘土を確認したが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

7.まとめ：第2区では本来の堆積の粘土層を確認したが、遺構および遺物の出土がなかったため、堆積した時期などは不明である。（西村）



第20図 調査区設定図 (S=1/1000)



第21図 第2区断面図
(S=1/50)

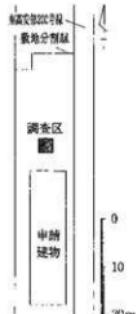
7 恩智遺跡(2001-352)の調査

- 調査名：長屋住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市恩智北町2丁目6-1の一部
- 調査期間：平成14年5月23日
- 調査面積：9 m²

5. 調査方法：長屋住宅に伴う浄化槽埋設工事部分にあたる3m四方を対象に調査を行った。なお、掘削深度について当初の予定では、工事が及ぶ現地表(T.P.+12.3m前後)下約3m迄であったが、約2.6m掘削したところで著しい湧水となり、壁面が崩壊し始めたので、その時点で掘削を中断した。

6. 調査概要：【検出遺構】現地表下約2mまでは、近年の開発造成に伴う盛土が堆積し、以下、0.6m以下は河川内堆土と考えられる厚い砂層が堆積する。木層は湧水が著しく、層内には径10~20cm程の粘土がブロック状に混在する。また、遺物では弥生時代中期末頃に比定される土器の破片が少量含まれる。

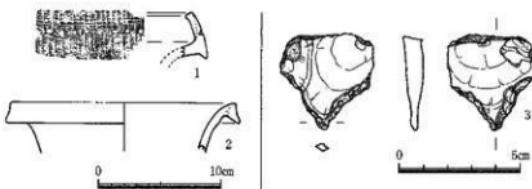
【出土遺物】出土した遺物の中で、図化できたものは広口壺2点(1・2)とサヌカイ卜製の石錐1点(3)の3点である。1は口縁端部が上下に肥厚し、横書き竪状文の上から刺突文が施される。法量については、口縁部の小破片であり明記できない。2は口縁端部が下方に肥厚するもので、2次焼成を受け赤化している。口径は復原値で18.2cmを測る。口縁端部に文様は施されない。いずれも畿内第IV様式木に比定されるものである。3の石錐は、全体が二角形を呈し、頭部と錐部の境界が鮮明である。法量は、最大長3.9cm、最大幅3.7cm、最大厚0.9cm、重量10.4gを測る。



第22図 調査区
設定団
(S=1/1000)



第23図 北壁面図 (S=1/100)



第24図 出土遺物実測図(土器 S=1/4 石器 S=1/2)

7. まとめ：当地付近では現在のところ、考古学的な調査が行われておらず、実態は不明なところが多い。しかし、当地点から西へ約300mの国道170号線(大阪外環状線)の西側では、当研究会が実施した公共下水道工事に伴う2件の調査において、層厚5m以上を測る弥生時代中期～中世にかけての河川堆積層が確認されており、今回確認した堆積層と有機的関係にあることが想定される。
(岡田清一)

8 恩智遺跡(2002-181)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市恩智北町4丁目631-7
- 調査期間：平成14年8月5日
- 調査面積：2 m²

5. 調査方法：浄化槽(規模2.0×1.0m)の調査を行なった。

今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高(調査地の北東側道路上T.P.+30.5m)を使用した。

6. 調査概要：調査地の現地表面の標高はT.P.+29.2m前後である。以下約1.5mまでの地層について機械と人力を併用しながら掘削し調査を行なった。1層は盛土で厚み約0.2mを測る。2層・3層は粘土で、3層の上面はやや黒ずんでいた。4層は細粒砂で、固くしまっていた。

7.まとめ：今回の調査地では、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。しかし、近隣で実施した調査地(吉田乃1993)では、埴輪片が出土した溝状遺構や、弥生土器片が出土した土坑を確認している。このことから、今回の調査地付近には、同時代の遺構が存在している可能性が高いと思われる。(西村)

参考文献

- ・吉田乃 1993「4. 恩智遺跡(91-540)」『八尾市内遺跡平成4年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告28 平成4年度公共事業 八尾市教育委員会

9 恩智遺跡(2002-224)の調査

- 調査名：個人住宅建設に伴う発掘調査
- 調査地：八尾市恩智北町4丁目290番・289番の各一部
- 調査期間：平成14年10月10日
- 調査面積：5 m²

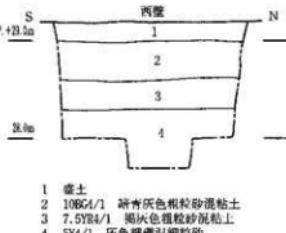
5. 調査方法：浄化槽部分に規模1.8×2.8mを設定し、深さ約2.5m前後まで掘削した。

6. 調査概要：調査では、現地表から下2.5m前後までに10層の地層を確認した。これら各地層はほぼ水平に堆積しており、遺物などを含む層は確認できなかつた。最深部で確認した厚み約0.5m前後を測る黒灰色粘質シルト層は、近隣で確認されている弥生時代の地層に類似がみられたが、時期を決定付けるものではなく詳細は不明である。

7.まとめ：調査地は南東から北西に緩やかな傾斜があり、南東が約40cm前後高い。北西側では約0.8m前後の盛り土がされていた。浄化槽部分の調査は盛り土が0.3~0.5m前後で北東に比べ浅いことから、旧地盤は段差があったようである。(高萩千秋)



第25図 調査区設定図(S=1/500)



第26図 調査区設定図(S=1/500)

- ・吉田乃 1993「4. 恩智遺跡(91-540)」『八尾市内遺跡平成4年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告28 平成4年度公共事業 八尾市教育委員会



第27図 調査区位置図(S=1/1000)



第28図 浄化槽部分断面図(S=1/80)

10 楽音寺遺跡(2002-293)の調査

1. 調査名：病院建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市楽音寺三丁目33

3. 調査期間：平成14年10月31日

4. 調査面積：9 m²

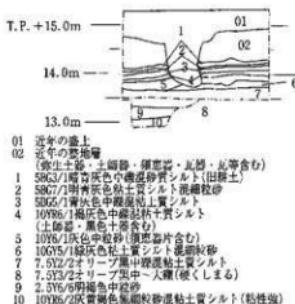
5. 調査方法：建設予定地に3m四方の調査区を設定した。現地表から2.4m前後までを機械・人力併用で掘削し、調査を実施した。高さの基準は調査区から北約80m地点の水準点(T.P.+15.22m)から移動した。

6. 調査概要：現地表面の高さはT.P.+15.3m前後で、1m前後の盛上がある。盛土02は病院開設当時の整地層で、内部に弥生～平安時代の遺物を少量含む。1層旧耕土以下0.2mで黒色土器を含む4層に至り、その直下の5層は須恵器を含んでいる。4層上面では、遺構の可能性のある落ち込みを検出したが、遺物は出土していない。7層は有機物を多量に含み、その下の8層は礫層で、遺構面となる可能性があるが、遺構・遺物は無かった。以下の9・10層は無遺物層である。

7. まとめ：これまでの調査結果から、4層は平安時代以降、8層は纏文時代の遺構面の可能性がある。
(成海)



第29図 調査区設定図(S=1/2000)



第30図 北壁断面図(S=1/100)

11 木の本遺跡(2002-364)の調査

1. 調査名：遺跡範囲確認(土地区画整理)に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市木の本2丁目20, 43, 45

3. 調査期間：平成14年12月5日～平成14年12月13日

4. 調査面積：54 m²

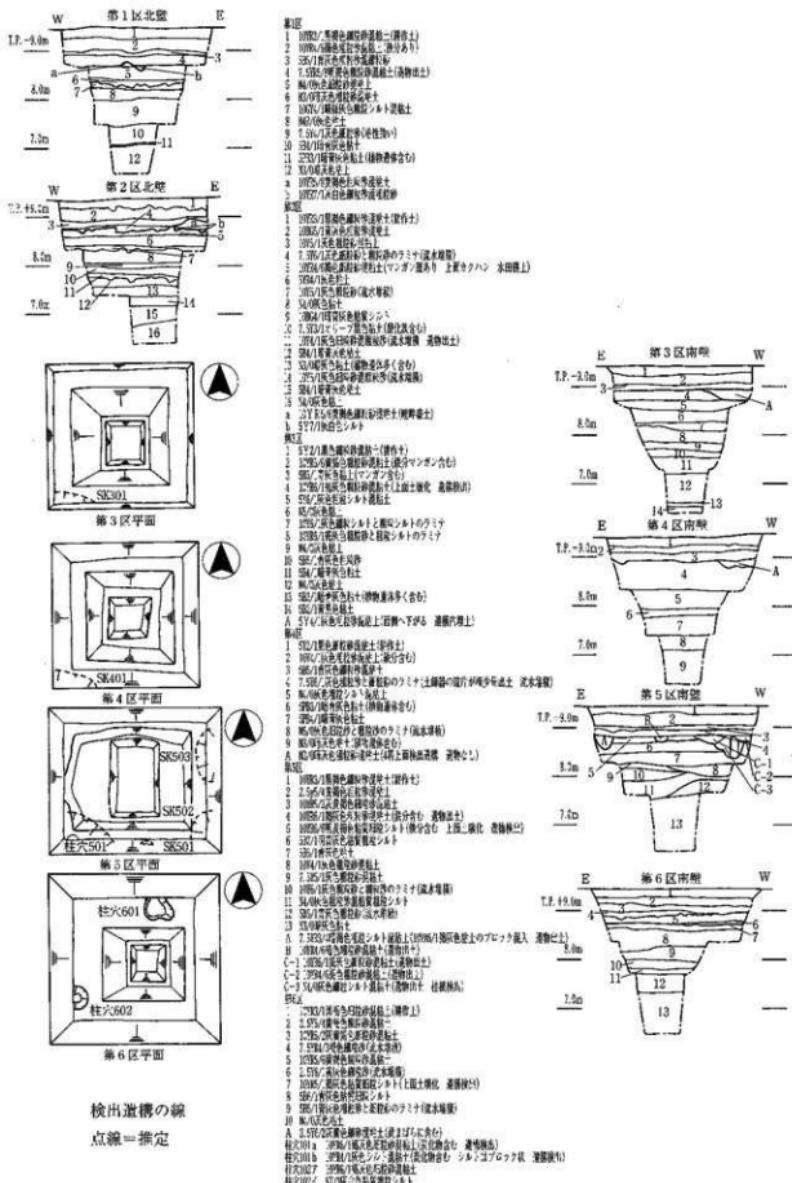
5. 調査方法：調査地に3×3mの調査区を6箇所設定し、現地表下3.0m前後まで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の東側道路上T.P.+10.0m)を使用した。調査地の現況は水田である。

6. 調査概要：【第1区】現地表面はT.P.+9.5m前後で、以下12層の地層を確認した。1層は耕作土。4層は須恵器や土師器の破片が極少量出土している。5層の上面は攪拌を受け、踏み込みを多く検出した。また、畦畔状の高まりを検出していることから、上面には水田が存在していたと思われる。7層の上面では踏み込みを多く検出したが、攪拌を受けた痕跡はなかった。5層上面は水田で、7層上面は踏み込みがあるので水田の可能性が高い。

【第2区】現地表面はT.P.+9.4m前後で、以下16層の地層を確認した。1層は耕作土。5層上面は攪拌を受け、踏み込みを多く検出した。また、畦畔状の高まりを検出した。8層上面では、踏み込みを確認した。10層には炭化物を含んでいた。11層からは遺物が極少量出土した。12層上面では踏み込みを確認した。5層上面は水田、8層上面や12層上面では踏み込みがあるので水田の可能性が高い。また、掘削残土の中からは凹面に布目、凸面に縄目を施す瓦(1)が出土していることから、建物が近隣に存在



第31図 調査区設定図
(S=1/2000)



第32図 第1区～第6区平面断面図 (S=1/100)



第33図 出土遺物実測図(S=1/4)

していた可能性が高いと考えられる。

【第3区】現地表面はT.P.+9.4m前後で、以下14層の地層を確認した。1層は耕作土。4層上面からは西側へ落ちる遺構(S K 301)を検出した。遺構の南西部は調査区外に至るため規模や形状は不明で、遺構内からの遺物の出土はなかった。

【第4区】現地表面はT.P.+9.4m前後で、以下9層の地層を確認した。1層は耕作土。4層上面では西側へ落ちる遺構(S K 401)を検出した。遺構の南西部は調査区外に至るため規模および形状は不明で、遺構内からの遺物の出土はなかった。4層内からは土師器の破片が出土した。

【第5区】現地表面はT.P.+9.4m前後で、以下13層の地層を確認した。1層は耕作土。4層は土師器の破片が出土している。5層上面では遺構を4箇所(柱穴501・S K 501~503)検出した。特に南西壁際で検出した柱穴501には柱根が残存しており、黒色土器の破片が出土したことから、この遺構は平安時代頃と思われる。S K 501~503は調査区外に至るため規模や形状は不明である。

【第6区】現地表面はT.P.+9.4m前後で、以下13層の地層を確認した。1層は耕作土。5層からは黒色土器の破片が出土した。7層上面では、遺構を2箇所(柱穴601・602)検出した。北東で検出した柱穴601からは土師器の椀(2)や黒色土器の椀(3)が出土し、南西壁際で検出した柱穴602には柱根が残存していた。柱穴601・602の時期は平安時代頃と思われる。

7.まとめ: 第3区と第4区では土坑(S K 301・S K 401)を検出した。各土坑は、調査区外にいたる為、規模や形状は不明で、遺物が出土していないため、時期の特定はできなかった。しかし、第1区と第2区の地層との対比から、これらの遺構は平安時代以降と思われる。第5区と第6区では、平安時代頃の柱穴を検出したことからこの地に当時の建物が存在していた可能性が高いと思われる。今回の調査地の北東150m地点での財团法人八尾市文化財調査研究会(以下同研究会と記す)第2次調査では平安時代中期から後期の遺物が出土した遺構を検出していることから、今回の調査地の第5区から北東側には同時代の集落が存在していたと思われる。

また、今回の調査地の東約75m地点での調査(研究会第7次調査)ではT.P.+7.0~7.2mで古墳時代前期(布留式期)の遺物が出土した地層を確認した。この地層に対応するのは第1区10層、第2区15層、第3区12層、第4区9層、第5区13層、第6区13層と考えられる。しかし、今回の調査地では遺構の検出および遺物の出土はなかった。

(西村)

参考文献

- ・木田敏幸 1983 「1木の本遺跡」『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査—その成果と概要—』財团法人八尾市文化財調査研究会
- ・近江俊秀・岡田清一 1989 「1. 河内中南部における古代末期から中世の上器の諸問題—木の本遺跡 SW-02出土遺物を中心として—」『八尾市文化財紀要4』八尾市教育委員会文化財室
- ・岡田清一 1998 「VII 木の本遺跡(第7次調査)」『財团法人 八尾市文化財調査研究会報告60』 財团法人八尾市文化財調査研究会

12 久宝寺遺跡(2002-145)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市渋川町1丁目53-1、35-2、53-5
3. 調査期間：平成14年9月5日
4. 調査面積：12m²

5. 調査方法：人坑部分(規模約2.0×2.0m、面積約4.0m²)3箇所について、工事により破壊される現地表下1.6~1.9m前後までを調査した。なお、

調査では西から順に第1~3区と呼称した。レベル高については、八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の北西方向に位置する十字路のセンター:T.P.+9.0m)を使用した。

6. 調査概要：第1区 現地表(T.P.+9.275m)下1.2m前後までは、客土・盛土(100層)である。以下現地表下1.9mまでの0.7m間で5層(101~105層)もの地層を確認した。101層は黒褐色を呈した細礫混シルト~極細粒砂である。攪拌を受けた地層である。水田耕作土の可能性が考えられる。102層は暗灰黄色の細礫混シルト~極細粒砂。瓦器または瓦質土器と思われる細片が極少量混在する。103層は灰オリーブ色シルト~極細粒砂。102・103層とともに攪拌を受けた地層のようである。104層は灰オリーブ色を呈したシルト。若干グライ化が認められる。105層は暗灰黄色の粘土質シルト~シルトで、確認した地層の中でもっとも粘性に富む。雲状の酸化Mnを極めて多く含む点が特徴的な地層である。遺構の検出はなし。

第2区 現地表(T.P.+9.280m前後)下1.1m前後までは、客土・盛土(200層)である。以下現地表下1.7mまでの0.6m間で5層(201~205層)もの地層を確認した。201層は、暗オリーブ灰色~黒色を呈した土壤化の顕著な細粒砂~粗粒砂である。水田耕作土の可能性が高い。202層・203層は、暗青灰色~青灰色のシルト~細粒砂である。グライ化が著しい。両層とともに攪拌を受けているようだ。204層はオリーブ灰色シルト。205層は、灰オリーブ色を呈した粘土質シルト~シルト。雲状の酸化Mnを極めて多く含む地層である。粘性が富む。遺構の検出はなし。

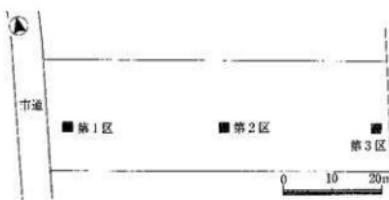
第3区 現地表(T.P.+9.280m前後)下1.6m前後までを調査したが、客土・盛土(300)であった。

7.まとめ：本調査地の東部に位置する第3区の調査では、客土・盛土が調査深度まで及んでいたため、有効な情報を得ることができなかった。一方、第1区から第2区にかけては、客土・盛土以下現地表下1.9m前後までの地層が、良好に遺存していた。その結果、第1区の101~105層が、第2区の201~205層にそれぞれ対応することが明らかになったほか、各地層が東から西に向かって若干レベル値を下げていることが判明した。

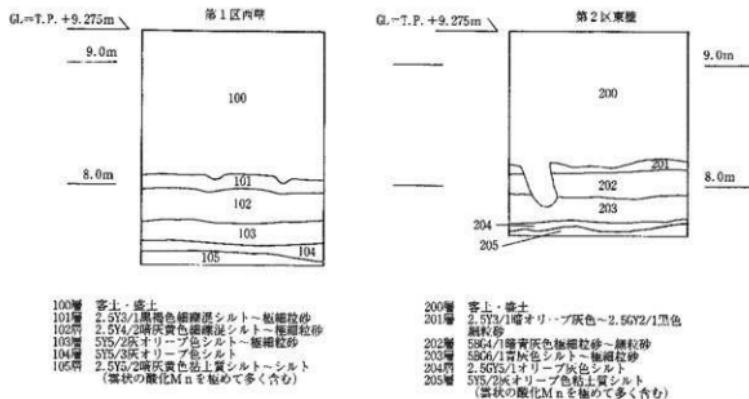
(樋口 薫)

参考文献

- ・岡田清・1997「II 久宝寺遺跡第17次調査(KH93-17)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告55』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・藤井淳弘・1998「I. 久宝寺遺跡(97-186)の調査—南久宝寺地区埋蔵文化財試掘調査概要報告—」『八尾市内遺跡平成9年度発掘調査報告書II』八尾市文化財調査報告39平成9年度公事業 八尾市教育委員会



第34図 調査区位置図(S=1/1000)



第35図 第1区・第2区地層断面図 (S=1/40)

13 久宝寺遺跡(2002-199)の調査

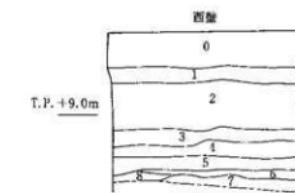
- 調査名：分譲住宅建設に伴う道構確認調査
- 調査地：八尾市渋川町1丁目37番の一部、38番の一部
- 調査期間：平成14年9月25日
- 調査面積：4 m²
- 調査方法：人孔部分に約2×2 m (4 m²)の調査区を1箇所設定し、工事掘削深度(約GL-1.6m)までの断面を観察した。

6. 調査概要：旧耕土(第1層)直下の層厚約0.5mを測る第2層は、層相からみて近世段階の洪水砂と考えられる。第3・5層は搅拌された層相で管鉄・斑鉄が多く含み作土の可能性が高い。第5層下面で見られる遺構状の第6層は、第5層での耕作に伴う偏溝と考えられる。第7層以下は水成層で、河川堆積層である。

7. まとめ：調査地は東部を北流する長瀬川の流域にあたり、全体の層相は砂粒が優勢である。断面の複数では生活面を形成するような安定した土層は認められなかった。また遺物の出土は無かった。
(坪田真一)



第36図 調査区設定図
(S=1/1000)



- 0 盆土
- 1 KG/0造灰色細粒砂～粗粒砂多孔シルト 旧耕土
- 2 :005/1緑灰色小礫(~2cm)混シルト～粗粒砂(上方細粒化)一部ラミナ グライ化
- 3 2.5Y6/2灰褐色細粒砂～粗粒砂混シルト 混拌層 斑鉄根付
- 4 2.5Y5/3にびい青色細粒砂少孔シルト 管鉄 水成層
- 5 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粗粒砂 搅拌層 壁鉄
- 6 2.5Y5/1灰褐色細粒砂～中粒砂粘土質シルト 產鐵?
- 7 5Y6/2オリーブ青色細粒砂～中粒砂 水成層
- 8 5Y5/1灰シルト グライ化 水成層

第37図 断面図 (S=1/50)

14 久宝寺遺跡(2002-285)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市久宝寺4丁目111番、112番、113番の各一部

3. 調査期間：平成14年11月5日

4. 調査面積：24m²

5. 調査方法：人孔部分に3×2mの調査区を4箇所(南東側を1区、南西側を2区、北側を3区、北西側を4区とする)設定し、現地表ト1.8m前後まで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.+8.4m)を使用した。

6. 調査概要：【第1区】現地表面はT.P.+8.5m前後で、以下5層の地層の堆積を確認した。1層は盛土、2層は旧耕作土である。4層は細粒砂泥粘土で、上面では土坑を1基(SK101)検出した。SK101は調査区外にいたるため規模などの詳細は不明である。遺構内からは土器の破片が極少量出土した。5層は細粒砂泥粘土で、土器の破片が極少量出土した。

【第2区】現地表面はT.P.+8.4m前後で、以下7層の地層の堆積を確認した。1層は盛土、2層は旧耕作土である。5層は粘土で、上面では土坑を1基(SK201)検出した。SK201は調査区外にいたるため規模などの詳細は不明である。遺構内からは須恵器や土器の破片が極少量出土した。6層は粘土で、7層はシルトである。

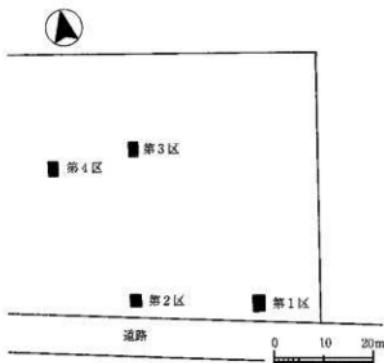
【第3区】現地表面はT.P.+8.3m前後で、以下6層の地層の堆積を確認した。1層は盛土。2層は旧耕作土である。6層は粘質シルトで、弥生土器(後期)の破片が極少量出土した。

【第4区】現地表面はT.P.+8.3m前後で、以下5層の地層の堆積を確認した。1層は盛土で、2層は旧耕作土である。5層はシルトで流水堆積と思われる。

7.まとめ：第1区と第2区で検出した土坑(SK101・SK201)は、出土した遺物から古墳時代以降のものに比定できる。また、第3区の6層には、弥生時代後期の遺物を含んでいたため同時期の遺構が調査地周辺にある可能性が高いと思われる。(西村)

参考文献

- 西村公助 1989「6 久宝寺遺跡(第3次調査)」『八尾市文化財調査研究会年報 昭和63年度』 財團法人八尾市文化財調査研究会報告25 財團法人八尾市文化財調査研究会
- 岡田清一 1997「II 久宝寺遺跡(第17次調査)」「久宝寺遺跡」財團法人 八尾市文化財調査研究会報告55 財團法人八尾市文化財調査研究会



第38図 調査区設定図(S=1/1000)



第39図 第1区～第4区壁面図(S=1/100)

13

15 郡川遺跡(2002-65)の調査

1. 調査名：特別養護老人ホーム建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市郡川2丁目33番1

3. 調査期間：平成14年11月27日

4. 調査面積：27m²

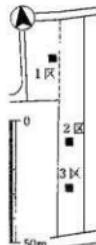
5. 調査方法：建築予定地の2ヶ所(北西を1区・南東を2区)、合併処理槽(3区)に3m四方の調査区を設定した。掘削深度は、1区が現地表下1.5m(T.P.+19.8m)まで、2区が現地表下1.8m(T.P.+20.0m)まで、3区が現地表下3.0m(T.P.+17.9m)までである。高さの基準は、調査地の西150m地点の水準(T.P.+16.871m)から移動した。

6. 調査概要：1区 現地表面の高さはT.P.+21.2~21.3m、調査直前までの耕作土(1~3層)が厚さ0.3~0.5mあり、以下4層・5層は細～中粒砂を主とするもので、搅拌をうけ、マンガンを含んでいる。6層はブロック層である。7~9層は中～粗粒砂を主とし、下層ほど粗い。最下の9層からは湧水があった。

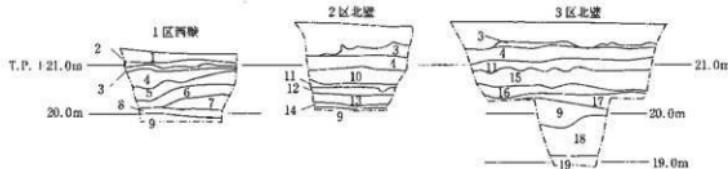
2区 現地表面の高さはT.P.+21.8m前後、盛土は0.4~0.6mあり、1区・2層が含まれている。3・4層は1区と同じである。12・13層からは多量の湧水があった。9層は2~3cmの礫層からなり、1区とは異なり硬く締まっている。

3区 現地表面の高さはT.P.+21.9m前後、盛土は0.4~0.6mあり、1・2層が含まれている。3・4層は1区・2区に対応する。11~17層は粘土質シルト～粗粒砂からなる互層で、含水量は多大であった。18層は植物遺体等の有機物を含んでいる。19層は硬く締まる礫層で粘土質シルトが若干含まれる。

7. まとめ：調査の結果、各調査区でT.P.+19~20mで含水量の多い砂層を検出した。堆積状況から、南東～北西方に向かって谷状地形にあたるものと推定される。調査地の南西約100mには郡川東塚古墳が尾根上に位置しておおり、それに対応する谷が調査地付近の微地形であると考えられる。(成海)



第40図
調査区設定図
(S=1/2000)



- 1 10YR3/2黒褐 中粒砂～中纖混粘土質シルト
- 2 10YR4/4-10YR3/1黒褐 中粒砂混粘土質シルトのブロック
- 3 10YR3/1黒褐 中粒砂～中纖(少)混粘土質シルト
- 4 10YR2/3黒褐 中纖混粘～中粒砂(マンガン斑)
- 5 10YR4/2灰黄褐 大纖(少)混粘～中粒砂
- 6 10YR4/2灰黄褐 細～中粒砂と10YR3/1混粘 粘土質シルトのブロック
- 7 2.5YV3/3にぶい黄褐色 中粒砂～中粒砂 10YR3/1黒褐 粘土質シルト少量含む
- 8 10YR4/1褐色 小纖混粘土質
- 9 2.5YV3/3暗オリーブ褐 中～細粒砂～中纖
- 10 10YR1/3にぶい黄褐色 粗粒砂～巨塊混粘土質シルト
- 11 10YR4/4褐 粗粒砂
- 12 10YR4/7褐 粗粒砂
- 13 10YR3/1黒褐 粘土質シルトと粗粒砂のブロック
- 14 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 中～粗粒砂
- 15 2.5YV5/6黄褐色 中粒砂のラミナ
- 16 2.5YV3/3オリーブ褐色 2.5Y5/6黄褐色 粗粒砂のラミナ
- 17 2.5YV3/3オリーブ褐色 新纖～粗粒砂と10YR3/1黒褐 粘土質シルトのラミナ
- 18 10YR1.7/1黒 粗粒砂混粘土質シルト 有機物含む
- 19 10YR1.7/1褐 粘土質シルト混中纖

第41図 断面図 (S=1/100)

16 郡川東塚古墳(2002-153)の調査

1. 調査名：個人住宅建設に伴う発掘調柶

2. 調査地：八尾市郡川3丁目56-2

3. 調査期間：平成14年8月1日

4. 調査面積：1.1m²

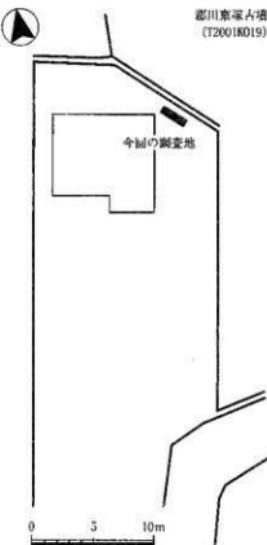
5. 調査方法：擁壁部分(規模約0.5×2.2m 面積約1.1m²)について、現地表(T.P.+18.65m前後)下1.0m前後までを人力で掘削し、調柶を行った。レベル高については、調柶地付近に存在する水準点(II 2858 平成11年度測定値T.P.+16.871m)を使用した。

6. 調柶概要：地層 現地表下0.2m前後までは客土・盛土(0層)である。以下現地表下1.0m前後までの0.8m間で3層(1層～3層)の地層を確認した。1層は限りなく現代に近い土壤化層である。基本的には水田耕作上であるが、水田内の水量を調整するための排水パイプと、それを設置した時に生じた搅乱も認められる。したがって、かなり乱れた層相を呈する。本層はさらに4層に細分が可能であった。2層は、5G4/1暗オリーブ灰色細混シルト～中粒砂。砂質優勢の地層で締まりは悪い。円筒埴輪片や弥生土器片が混在していた。3層は調柶区の東部で確認した地層である。10YR3/1黒褐色細粒砂～中粒砂混シルトのブロックで形成された地層である。硬く締まっている。本層上面において、人為的に置いたと思われる人頭大の砾を検出した。

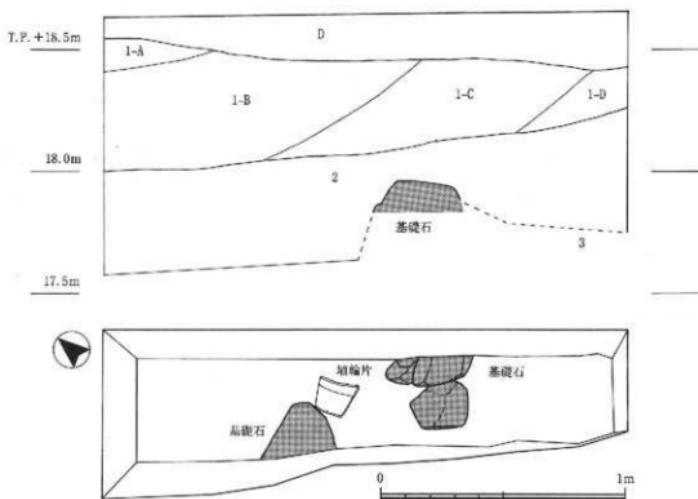
検出遺構 現地表下0.7～0.8mの3層上面において、遺構面を検出した。遺構は、人為的に形成されたブロック土の上面に、人頭大の砾をば南北方向に並べたもので、昨年末に実施された郡川東塚古墳の調柶で検出された、後円部横穴式石室の基礎石と同様のものである。

出土遺物 固化できたものは、2層内出土遺物(1～3)、および基壇石面検出時出土遺物(4)である。いずれも円筒埴輪の細片である。1・2は突帯を1条確認することができる。突帯は、突出度が低い。調整を見ると、突帶上辺は比較的ストロークの長い横ナデを施すが、下辺は雄でストロークの短いナデを行う。突帶上面はストロークの短い横ナデを行う。一方円筒部の調整は、外面部が左上がりのハケナデを行うのみである。内面には、指ナデおよび指押えが認められる。3は、基底部である。端面は丸く終わる。内面には指ナデが残る。4は2条のタガが確認できる。突帶形状や調整などは、1・2と変わらない。1・2・4に言えることは、突帶の貼り付け方法に特徴があるということである。つまり、粘土紐を円筒部面に貼り付ける際に、上辺は比較的丁寧に行うのに対し、下辺は非常に粗雑であることが見える。いずれの埴輪も、川西編年のV期(6世紀初頭～前半)に属するものと推測される。

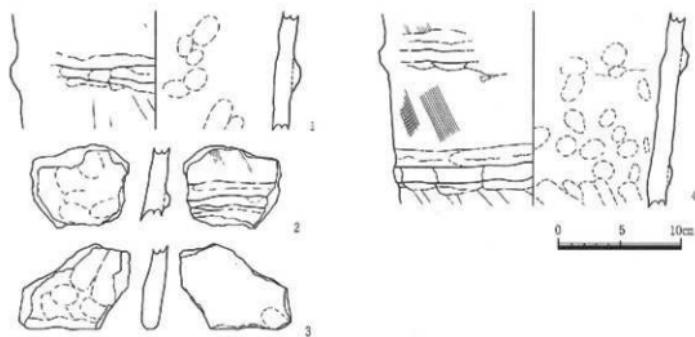
7. まとめ：今回の調柶地は、昨年末に実施された郡川東塚古墳に南接するところに位置する。昨年の調柶では、埴輪列から復元した場合、本古墳がさらに南側に広がることが可能性として指摘したに留まったわけであるが、今回の調柶によって、南側への広がりが考古学的に確認できたことは有意義であった。また検出した遺構は、後円部横穴式石室に伴う基礎石の一部と思われるが、この成果は、基礎石の範囲が南側と西側に広がることを示しており、石室の規模を考える上で重要な成果といえる。今回の調柶では、古墳構築当時の地表面を確認することができなかったことは残念であったが、2層内において弥生土器が混在していたことを考えると、本古墳が形成される以前に弥生時代の遺構が構築された可能性も充分考えられる。今後の調柶では、下層についても注意する必要があるであろう。(樋口)



第42図 調柶区位置図(S=1/400)



第43図 平・断面図 ($S=1/20$)



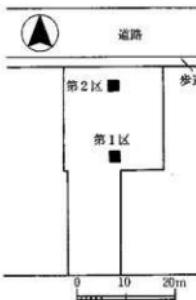
第44図 出土遺物実測図 ($S=1/4$)

17 小阪合遺跡(2002-294)の調査

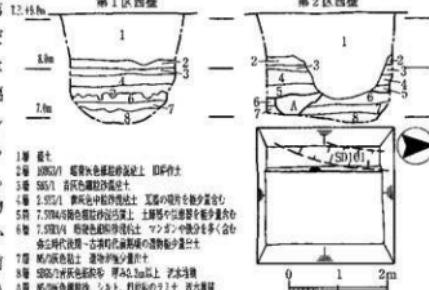
- 調査名：社会福祉施設建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市青山町4丁目163, 165-2, 166
- 調査期間：平成14年10月29日
- 調査面積：14.09m²

5. 調査方法：建物基礎部分に2ヶ所の調査区を設定し、現地表下2.2m前後まで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の北東側道路上T.P.+9.0m）を使用した。

6. 調査概要：【第1区・第2区】現地表面はT.P.+9.1m前後で、以下8層の堆積を確認した。4層からは瓦器、5層からは上師器や須恵器、6層からは土師器が少量出土した。第1区の6層上面では人または動物が踏み込んだと思われるくぼみを検出した。また第2区では南北方向に伸びる溝（S D101）を検出した。幅0.4m、深さ0.4mを測り、埋土は細粒砂、シルト、粗粒砂で遺物の出土はなかった。7層からは上師器が少量出土したが、時期は不明である。
 7.まとめ：第2区では溝を検出したが、遺物の出土がなかった為、時期は不明である。しかし、周辺の調査結果から、おそらく古墳時代以前ころと推定される。
 (西村)



第45図 調査区設定図 (S=1/1000)
第1区 第2区



第46図 1区・2区平面図 (S=1/1000)

18 成法寺遺跡(2002-266)の調査

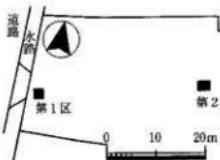
- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市南本町1丁目108番1・108番3・109番・110番・111番・114番・115番
- 調査期間：平成14年10月8日
- 調査面積：9m²

5. 調査方法：人孔部分の2箇所（第1区・第2区）を現地表下1.6m前後まで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している値（調査地の南西側道路上T.P.+9.1m）を使用した。

6. 調査概要：【第1区】現地表面はT.P.+9.1m前後で、以下8層の地層を確認した。4層は近世の瓦を含む。5層は中世の瓦器の破片を含む。6層は上師器の羽釜の破片を、7層は黒色土器を、8層は弥生土器（後期）や上師器の破片を多く含む層である。遺物の出土は上記した地層からあつたが、遺構の検出はなかった。

【第2区】現地表面はT.P.+8.9m前後で、以下2層の地層を確認した。2層は粗粒砂と細粒砂のラミナで、厚さ0.7m以上を測る。

7.まとめ：第1区の4層・6層・7層・8層からは遺物が出土していることから、近隣に遺構が存在していた可能性が高いと考えられる。また、第2区の2層は流水堆積であり、今回の調査地の第2区には河川があったと思われる。しかし河川からは遺物の出土がなかった為、時期は不明である。（西村）



第47図 調査区設定図 (S=1/1000)



第48図 第1区・第2区断面図 (S=1/100)

19 神宮寺遺跡(2001-64)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う小規模発掘調査
2. 調査地：八尾市神宮寺5丁目171、172
3. 調査期間：平成14年10月9日・平成14年11月18日～平成14年11月19日
4. 調査面積：46m²
5. 調査方法：調査対象となるのは、浄化槽部分2箇所と防火水槽部分1箇所の3箇所である。調査の便宜上、浄化槽北部を第1区、南部を第3区、そして位置的にその中間にあたる防火水槽部分を第2区と呼称した。規模は第1区—南北2m×東西4mの面積8m²、第2区—南北3m×東西10mの30m²、第3区—南北4m×東西2mの8m²をそれぞれ測る。掘削は各調査区とも現況地盤から0.5～1.0mまでの盛土部分を重機で排除した後、以下約0.3mの地層を重機と人力を併用して掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

6. 調査概要：【第1区】現況地盤はT.P.+20m前後を測る。0.7m前後を測る第1層盛土を含め9層の地層を確認した。第2・3層は褐色系のシルトで主に澗窓区西部に見られ、層内からは近世に比定される陶磁器片や瓦が出土した。調査区東部については盛土以下約0.5mを測る第4層暗褐色シルトが堆積し、層内から古墳時代前期(布留式期)に比定される小型丸底壺をはじめとする古式土器の破片が出土した。本層の西部は第2・3層に削平されるようである。第6層黒褐色シルトからは、弥生時代の壺・甕等の土器片やサヌカイト製石器が出土した。第7層暗灰色粘土質シルトは第6層にぶい黄橙色シルトの上面から切り込まれるもので、炭化物が多量に含まれる。遺構の可能性が高いものと判断されるが、面的に捉えることはできなかった。第8層暗褐色砂礫混じりシルトは堅くよく締まっており、第9層にぶい黄橙色砂質シルトは水成層と見られる。

【第2区】本調査区については、迷路の行き違いからか、既に掘削が終了し工事が進められていた状況で、地層の断面観察しか行なえなかった。現況地盤はT.P.+19.3～19.7mを測る、約0.1m前後を測る盛土を含め10層の地層を確認した。第3～5層は砂混じりの粘土で、第3層内からは古墳時代の古式土器が出土した。第6層は細砂とシルトで、ラミナが見られ流水堆積を示す層である。第7層は粗砂混じり粘土層で、上面は土壤化しており、東壁において上面から切り込む遺構(土坑?)らしき堆積層を確認したが、全容は不明である。第8層は粗砂や砾が混じる粘土質で、上面は土壤化している。北壁においては本層上面から切り込む砂を確認し、砂の中からは弥生時代前期と思われる土器片が出土した。本砂層はおそらく河川の堆積と思われる。第9層は粘土質、第10層は粘土である。

【第3区】現況地盤はT.P.+19.7m前後を測る。0.2～0.8mを測る第1層盛土を含め11層の地層を確認した。第1層暗褐色シルトには近世に比定される陶磁器片や瓦が出土した。第2・3層は酸化鉄分を含む褐色系のシルトで、両層内からは埴輪片のほか、飛鳥～奈良時代に比定される土器器杯、須恵器製の杯・壺、そして瓦が出土した。第4層は中粒砂～粗粒砂が堆積する河川内埋土、第5～7層は各層厚0.2m前後を測るシルト、第8層はシルト～極細粒砂で構成される水成層となる。第9層黒褐色シルトからは、弥生時代の壺底部をはじめサヌカイト剥片が出土した。本層は第1区の第6層に対応するものと思われる。第10層は暗青灰色砂質シルトの水成層で、第1区の第6層に対応するものと思われる。

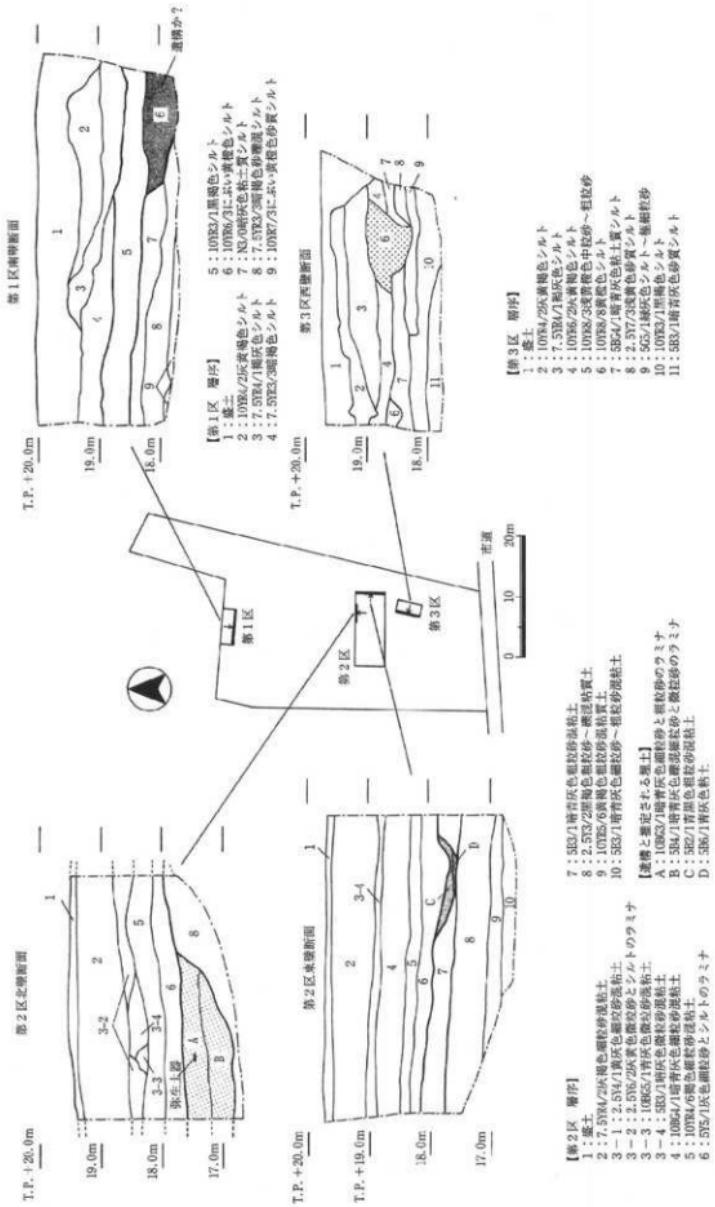
出土遺物

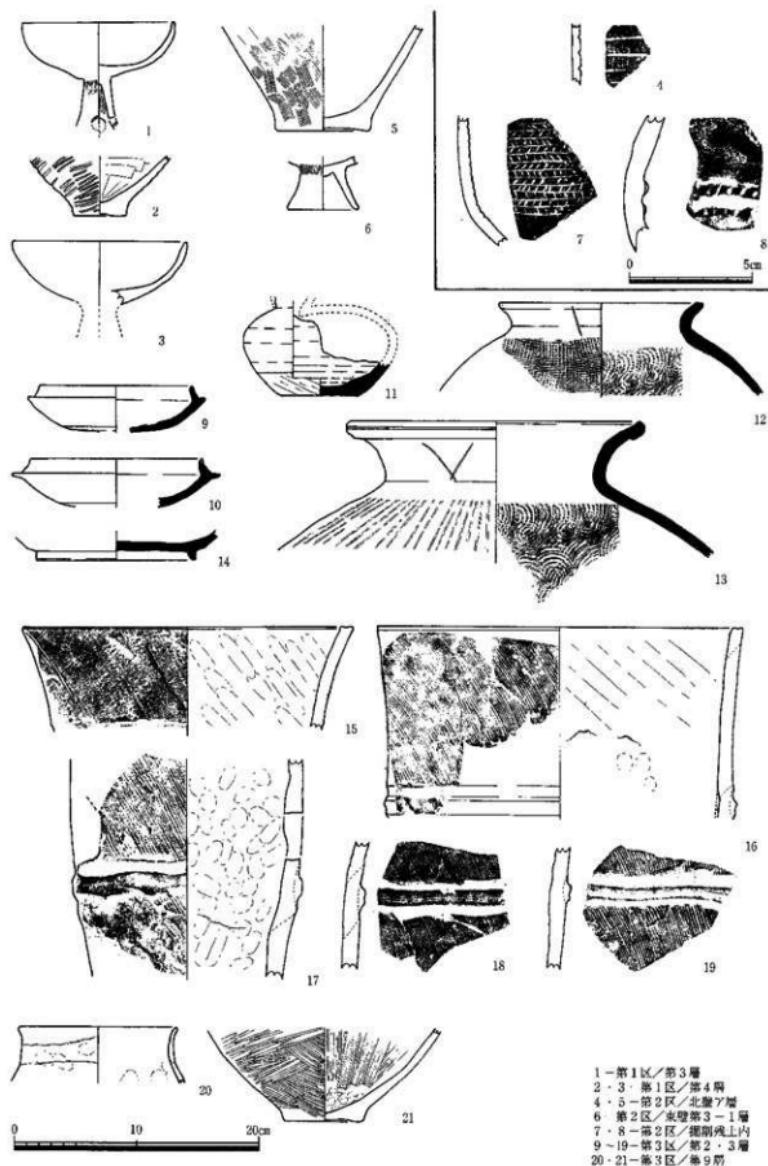
全体でコンテナ1箱分が出土した。そのうち図化できたものは21点を数える。以下、各調査区毎に記述する。

【第1区】1は第3層から出土した杯部が椀形を呈した高杯である。2・3は第4層から出土したもので、2は壺の底部、3は1と同形態の高杯である。これらの遺物は弥生時代後期末～古墳時代前期(布留式期)に比定される。

【第2区】4・5は北壁A層内で見つかったもので、いずれも弥生時代前期に比定される壺と推定される。4は外面に多条の沈線を有し、5は外面ハケ調整が施される。6は東壁第3～1層から出土した脚台部である。器種は不明であるが、古墳時代初頭(庄内式期)～前期に比定される東海地域からの搬入品

第49図 調査区位置図(S=1/800)および堅新面図(S=1/80)





第50図 出土遺物実測図(4・7・8はS=1/2、他は全てS=1/4)

と思われる。7・8については掘削残土内から見つかったもので、層位的には不明である。器種はいずれも弥生時代前期に比定される壺で、7は多条の沈線間に列点文、8は刻目付きの貼付突帯文がそれぞれの器面に巡らされる。

【第3区】9～19は第2・3層から出土した。9・10は須恵器蓋杯の杯身で、いずれもTK43型式に属するものである。11は須恵器平瓶で、口縁部および体部1/3は欠損している。外面下半部には「火拂」の痕跡が認められる。12・13は須恵器壺で、いずれも頸部外面には「ヘラ記号」を有する。以上は6世紀後葉に比定されると考えられる。14は須恵器杯で、奈良時代の所産と考えられる。15～19は円筒埴輪で、15・16は口縁部、17～19は体部の破片である。全て土師質の無黒漆で、明るい褐色を呈する。調整は、外面が1次調整のタテハケ、内面はユビナデである。また、15の口縁部外面付近にはヘラ記号を有し、17には透かし孔の痕跡が確認できる。タガの上面の形状について見ると、16・18・19の3点はユビナデを施した「M」字形、17は板状工具を用いたような平坦面を呈する。すべて川西編年V期に属するものである。

20・21は第9層から出土した弥生時代前期に比定される壺である。20は口縁部の破片で器壁が薄く、外面に接合痕が顯著に見られる。21は底部のみ残存で、外面は密にヘラミガキが施される。

7.まとめ：今回の調査では、狹小な調査区および緒事情の問題から面上に遺構を捉えるまでには至らなかった。しかし、地層の断面観察と遺物の検出から、当地において弥生時代～奈良時代にかけての人の営みが存在したことが検証できた。当地の西側においては、平成5年度に共同住宅建設工事に伴う調査が実施されており、その結果、弥生時代中期の墓域、古墳時代初頭（庄内式期）の河川跡、中世の生産域が確認されている。今回の調査で出土した遺物からもこれらの遺構との有機的な関連が示唆される。また、第3区で見つかった埴輪については、奈良時代の整地あるいは集落形成の際に削平・攪拌された古墳あるいは埴輪窯の存在を示唆する。

（岡田）

参考文献

- ・岡田清一 1997「Ⅲ 神宮寺遺跡第1次調査（Z G93-1）」『財團法人 八尾市文化財調査研究会報告57』財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・寺沢 勲・森井貞雄 1989『弥生土器の様式と編年』木耳社
- ・川西宏幸 1978『円筒埴輪総論』考古学雑誌
- ・田辺昭二 1966『南島古窯址群I』平安学園考古学クラブ

20 神宮寺遺跡(2002-280)の調査

- 調査名：個人住宅建設に伴う発掘調査
- 調査地：八尾市神宮寺5丁目130番、131番
- 調査期間：平成14年11月11日
- 調査面積：7.9m²
- 調査方法：浄化槽部分と建物基礎部分の調査を行った。浄化槽を第1区(1.3×3m)、基礎部分を第2区(2×2m)とする。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の西側道路上T.P.+16.2m)を使用した。
- 調査概要：【第1区・第2区】現地表面はT.P.+22.0m前後で、以下2mまでに7層の地層を確認した。1層は盛土。2～4層は粘質土や粘土で、3層には植物遺体が多く含んでいた。5層は粗粒砂混細砂(中礫多く含む)、6層は極粗粒砂(大礫含む)、7層は板粗粒砂(中礫含む)である。
- まとめ：第1区・第2区では、遺構の検出及び遺物の出土はなかった。5～7層の砂礫は扇状地を形成する堆積と思われる。
(西村)

第2区
第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

第2区

第1区

道路

22 高安古墳群(2001-213)の調査

1. 調査名：墓地造成に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市黒谷5丁目地内
3. 調査期間：平成14年1月9日～平成14年2月26日
4. 調査面積：約50m²
5. 調査方法：事前の踏査により古墳状隆起の認められた3箇所について、A～C区の調査区を設定した。調査はすべて人力にて行い、埋め戻しは斜面部分に土壌を積み上げて現状復帰した。なお、今回の墓地造成予定地には、平成4年度に遺構確認調査を行い、墳丘範囲を確認した妙見寺境内1号墳・同2号墳が存在する。

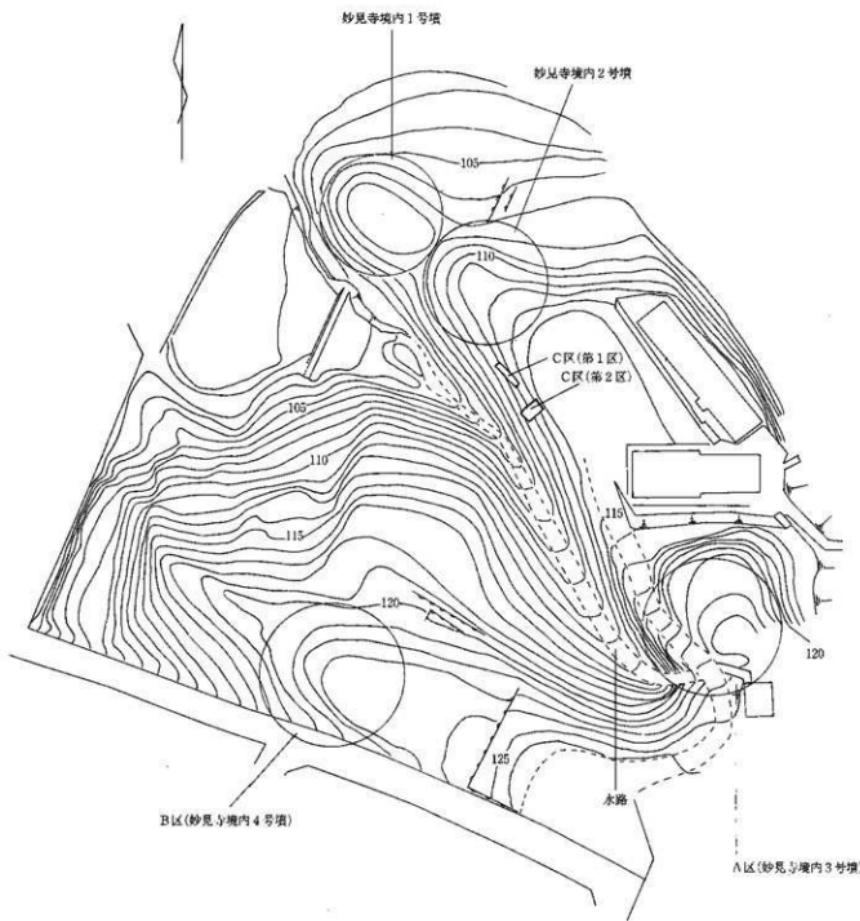
6. 調査概要：【A区 妙見寺境内3号墳】本調査地は北西方向に延びる二つの尾根があり、尾根の間に深い谷が形成されている。北側の尾根には、妙見寺境内1号墳・同2号墳が存在する。向墳から妙見寺本堂を経て南側に古墳状隆起が認められ、A区として2箇所の調査区を設定した。この結果、第1区で石室羨道部分の石を確認した。以下、本墳を妙見寺境内3号墳と呼称する。

1区 本墳は西側を中心に現況道路により削平を受けており、道路に沿って西側に崖面が形成されていた。この崖面を精査したところ、一部で石の露出がみられたため、この部分を中心にも幅2.5～3m、長さ5mの調査区を設定した(1区)。この結果、横穴式石室の袖部から羨道部にかけて約1m分の石材を確認した。石材は奥壁から見て羨道部右側壁の基底石が2つと第一段目の石材が1つ、袖石とみられる石材が1つ遺存していた。また羨道部左側壁は3つの石材が遺存していた。また石材遺存部及びその北東側には一部、側壁の裏込めかとみられる石が存在していた。また、羨道部床面直上には、長径20cmまでの石が4つ確認できたが、敷石となるかどうかは判然としない。

トレンチ壁面の上層の状況から、石室の形状と大きさは以下のように推定される。まず羨道部右側壁西側の壁面④、⑩では、地山である②、④、⑤層とこれより切り込む側壁裏込め土である10層がみられる。このことから石室の袖部の幅はトレンチ内に収まる位置にあったとみられ、幅0.8m前後の幅と推定される。また羨道部左側壁東側の壁面⑥では、地山である①～③層がみられ、羨道部左側壁の北延長部分のすぐ東側で、地山の立ち上がりが平面的に確認できる。このことから、羨道部左側壁は袖部を持たずに、そのまま玄室部分の左側壁につながっていたものと推定される。このことから、妙見寺3号墳は右片袖式の横穴式石室と考えられる。また玄室部分については、石室破壊時の掘り込みの南北側の立ち上がりが、西側の壁⑧と東側の壁⑨で確認できた。しかしながら北東側では掘り方の立ち上がりは確認できず、さらに北東側に続くものとみられる。このことから、玄室の長さは4m以上になると推定される。以上から妙見寺3号墳の石室の大きさは羨道部幅0.9m、同遺存長1.1m、推定玄室幅1.8m前後、推定玄室長4mとなる。なお、遺存した石材の並びから、石室の開口方向は南西方向(S-43°～W)となる。

2区 1区に直交して北西側斜面に幅1m、長さ9mのトレンチを設定した。この結果、地表下0.2～0.8mで地山層かとみられる①、②層を確認した。また地山層の上の一部には墳丘盛土層かともみられる3層がみられた。ここでは調査区の北西端付近の標高120m前後で、地山層の傾斜の終わりを確認しており、墳丘裾はこの付近になるとみられる。

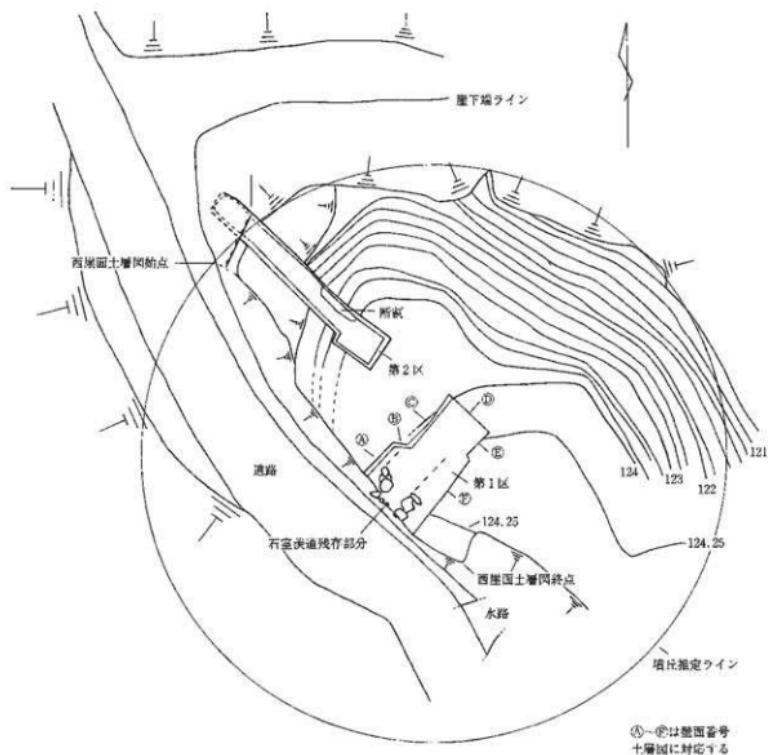
墳丘の築成方法 本墳は削平により西側が崖面をなしていたため、この部分を精査することにより墳丘の築成方法をある程度知ることができた。西崖面においても北西側は標高120m前後で地山層④～2層の傾斜の終わりを確認しており、この付近が墳丘裾と考えられる。本墳は北西に延びる尾根の地形を利用して地山を削りだすことにより、墳丘を築成しているものとみられるが、西崖面部分では墳丘裾から2.9mの高さ、標高122.9m付近で地山層を水平にカットしている状況が認められる。地山層の上には、黄灰色膠泥粘砂(3層)による盛土がなされている。盛土は厚さ0.7m認められるが、これより上は石室破壊時に削平されたと考えられる。



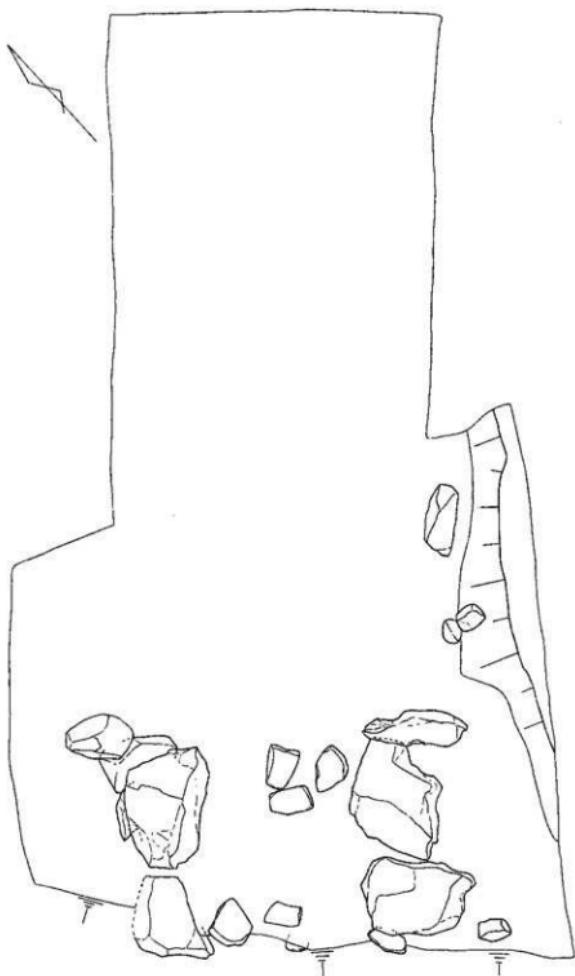
第55図 調査地地形測量図 ($S=1/800$)

石室構築のための基礎地業 西側崖面の土層観察により石室構築のための基礎地業のあり方を、推定することができた。以下、西崖面の土層のあり方から推定した基礎地業の工程である。

- ① 基礎地業の掘り方の掘削 地山層の高くなる南東側、石室に向かって右側では、地山層④-1層の上に黄灰色難混粘質土層(14層)による墳丘盛土がなされる。このうち石室に向かって左側では地山層①層上面から、左側では盛土層14層から、基礎事業のための掘り込みがなされる。掘り方の上面幅は4.8m前後、深さは1m前後である。掘り方内には厚さ0.1~0.3mの粘土層・粘砂層が敷かれる。この敷土の大半は粘土ブロックを含む粘性の高い土である。
- ② 渓道の基礎石及び側壁を設定。敷土の上に側壁石材を設定するが、敷土は石室に向かって右側の南東側が高い。このため左側には基礎石が置かれているが、右側には径20cmの小石が挟まれているのみで、基礎石がみられない。左側側壁の基礎石及び右側側壁の石材の裏側には、砂質土と粘砂による裏込めがなされる(6・7層)。
- ③ 床面の形成 左側側壁基礎石と右側崖第一段石との間にはさらに掘り込みが行われ、石室基礎地作業の敷土とは異なる土である黄灰白色難混粘性砂質土層(4層)が0.3mの厚さで敷かれる。この土層には径20cm前後の砾が含まれていた。



第56図 A区(妙見寺境内 3号墳)墳丘測量図(S=1/200)



第57図 妙見寺境内 3号墳石室平面図 (S=1/30)

出土遺物 石室破壊時の掘り込み埋土の最下層である5層と廃土から、須恵器の壺蓋の破片(図版9左下写真1、2は5層出土、3は廃土出土)が出土した。また床面構成層である4~2層から須恵器の壺片が出土した。出土した須恵器の壺蓋はT K10型式壺のものとみられる。このことから妙見寺境内3号墳の時期は6世紀中葉前後と推定される。

小結 妙見寺3号墳の墳丘裾は標高120m前後とみられ、推定される玄室の中心付近を墳丘の中心と推定すれば、直径23m前後の円墳になるとみられる。また埋葬主体は右片袖式の横穴式石室であり、築造時期は6世紀中葉前後と考えられる。

[B区 妙見寺境内4号墳] 調査地の二つの尾根のうち、南側の尾根の先端付近に古墳状隆起が認められた。このためこの部分をB区として、第1区~第3区の調査区を設定して調査を行った。この結果、埋葬主体は明らかにならなかったものの、古墳であることを確認することができた。以下、本墳を妙見寺境内4号墳と呼称する。なお、第1区については間に里道が通るため、里道部を調査範囲から外し、南側を第1区南トレント、北側を第1区北トレントとした。

第1区南トレント 南西斜面部分に幅0.5m、長さ3mのトレントを一本設定したが、地表下0.1m前後で地山層を確認するに留まった。さらに調査区周辺の幅7m前後の範囲の廃食土を除去し、石室の石材の検出に努めたが、地山層を確認するに留まり、石室は確認できなかつた。

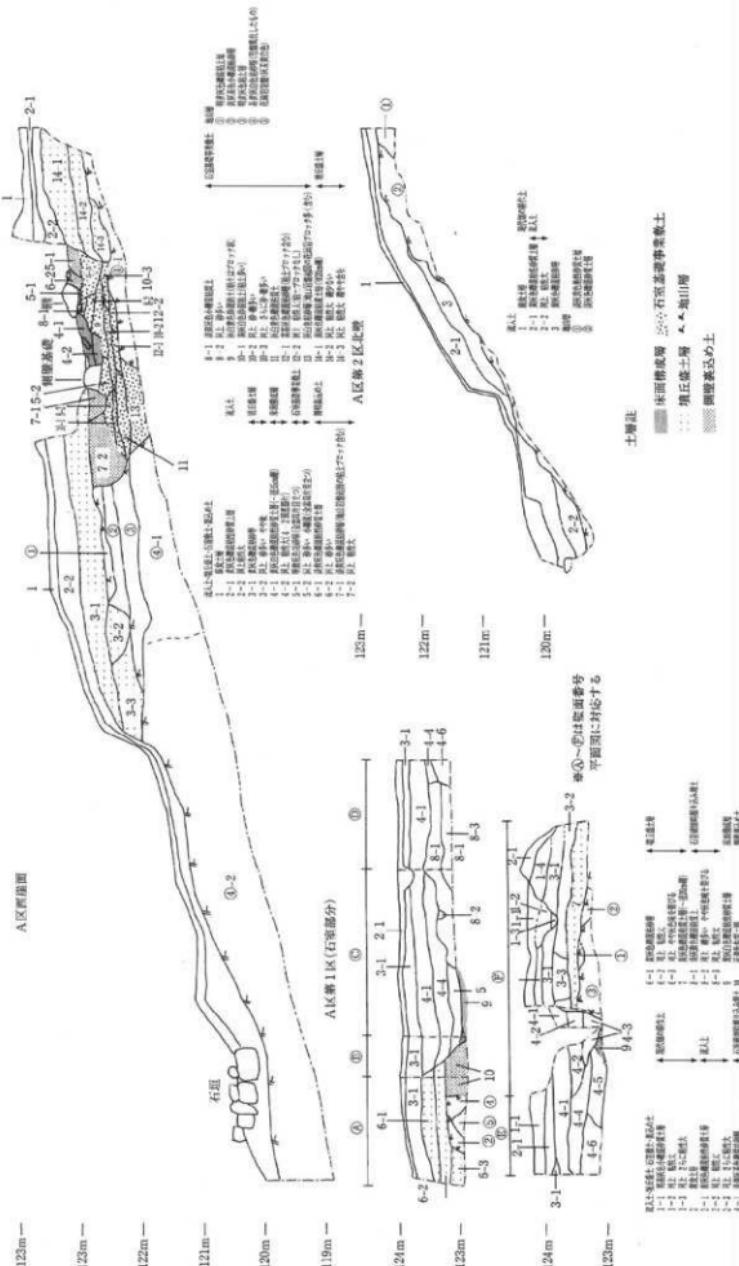
第1区北トレント 地表下0.7~0.8mで地山層かとみられる暗黄灰茶色粘質土層(6層)を確認した。6層の上の流入土層である2~3層には、土師器片、須恵器片が含まれていた。特に2層から出土した土師器片(図版9左下写真4)と須恵器壺片(図版9左下写真6)は、古墳時代後期墳の所産とみられ、妙見寺4号墳に伴う遺物とみられる。また6層を切り込む土坑もしくは落ち込み状の遺構の一部を検出した。深さ0.5mを測り、埋土は灰黄茶色小礫混粘性砂質土層(5層)である。埋土から土器小片一点とサヌカイト製の石器の剥片が数点(図版9右下写真1、2、4)が出土した。土器小片は生駒西麓産の胎土ではあるが細片であり、石器も剥片のみであり、時期決定は難しい。このことからこの遺構については、弥生時代頃の時期のものかと思われるが、時期の確定にはまだ資料不足である。

第2区 北東側斜面部分に幅1m、長さ5mの調査区を設定した。深さ0.7~1.1mで墳丘構成層とみられる暗黄灰茶色小礫混粘性砂質土層(7層)を確認した。この土層中にはサヌカイトの石器剥片(図版9右下写真3)が含まれており、先に確認した弥生時代頃の時期の包含層等になるとみられる。この土層を削りだして墳丘が築造されているようである。ここでは墳丘構成層である7層を切り込む周濠状の痕跡を確認した。周濠状痕跡の上面幅は2.4m、深さは0.25m以上を測る。埋土は、淡黄灰茶色小礫混粘性砂質土層(6層)であり、遺物は確認できなかつた。また流入土層である2~4層から土師器小片が出土している。

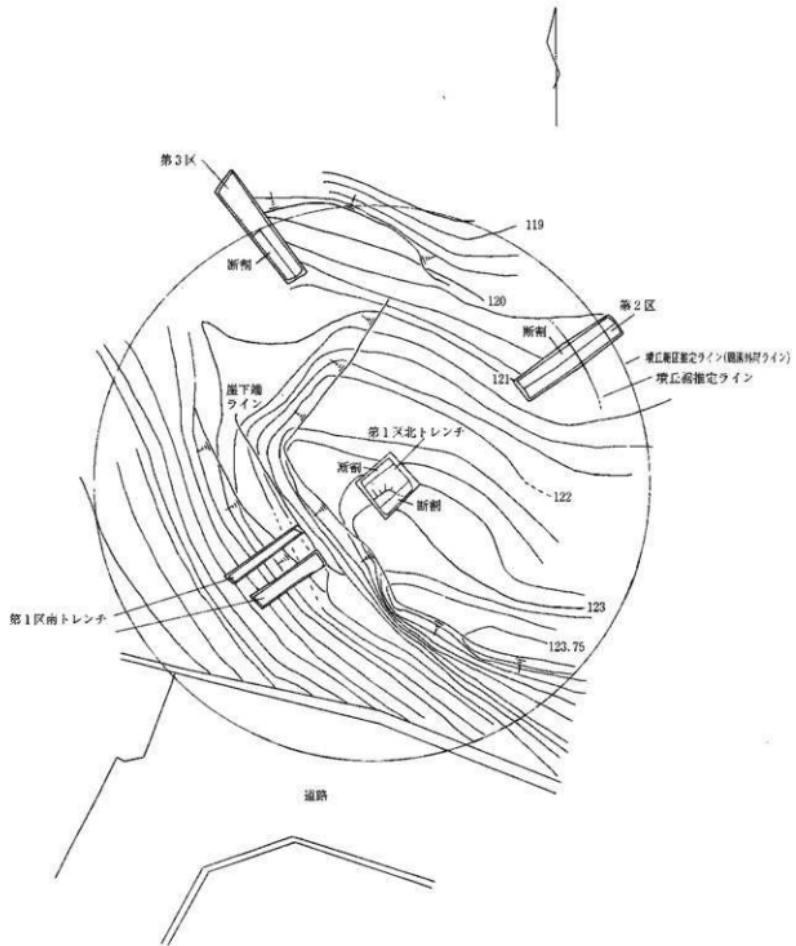
第3区 北西側斜面部分に幅1m、長さ5mの調査区を設定した。深さ1.0~1.4mで、墳丘構成層とみられる暗黄灰茶色小礫混粘性砂質土層(6層)を確認した。この土層は第2区で確認した墳丘構成層の7層と近似する。ここでは標高119m付近で、墳丘構成層の傾斜が緩やかになる部分を確認した。ここでは周濠状痕跡は確認できなかつたが、この付近が墳丘裾になるものとみられる。また流入土である2~5層から須恵器片・土師器片が出土した。この中にはやや時期の下るものもみられるが、墳丘裾直上付近の5~1層から出土した土師器壺片(図版9左下写真5)は、古墳時代後期頃の所産であり、妙見寺4号墳に伴う遺物とみられる。

小結 妙見寺境内4号墳は周濠状痕跡と墳丘裾とみられる落ちやさらには全体の地形から、直径23m前後の円墳になるとみられる。埋葬主体については今回の調査では判然としなかつた。さらに南によりに横穴式石室が存在するか、木棺直葬などの施設であったのかもしれない。いずれにせよ、出土遺物から5世紀後半から6世紀代にかけての古墳とみられる。

[C区] 調査地の北側尾根に位置する妙見寺境内2号墳の南側にみられる古墳状隆起部分である。北西斜面部分に幅1m、長さ5mの調査区(第1区)を、南西斜面部分に幅2m、長さ3mの調査区(第2区)を設定して調査を行った。が、両調査区とも花崗岩岩盤質の地山を確認するに留まり、古墳の痕跡



第58図 A区土層断面図(S=1/80)

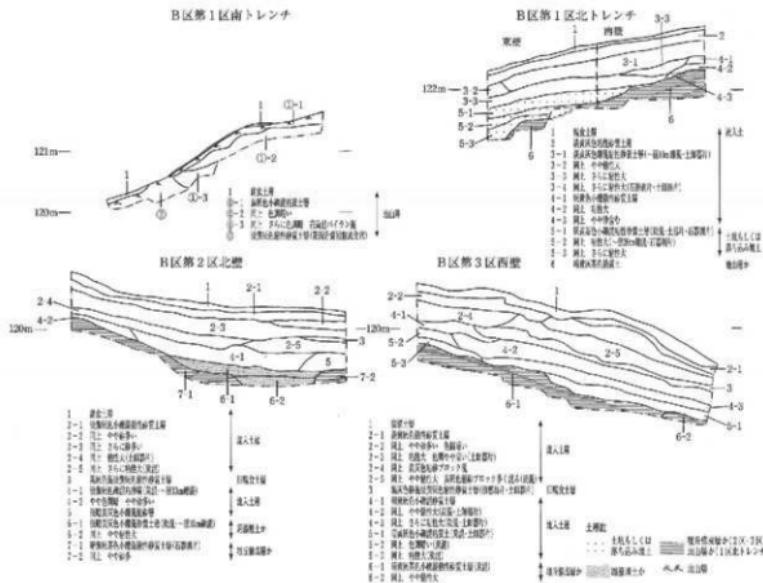


第59図 妙見寺境内 4号墳墳丘測量図 ($S=1/200$)

を確認することはできなかつた。

7.まとめ：今回の調査では古墳状跡のみられた3箇所について、遺構確認調査を行った。この結果、このうちの2箇所について古墳であることを確認し、妙見寺境内3号墳、同4号墳とした。このことから本調査地では、平成4年度の遺構確認調査で確認した妙見寺境内1号墳、同2号墳と合わせて4基の古墳が存在することになる。妙見寺境内1号墳・同2号墳は6世紀後半頃の時期に位置付けられるものであり、本調査地には6世紀代の古墳が尾根上に近接して築造されていることとなる。また周辺にも既知の古墳が確認されており、高安古墳群の支群の一つとして捉えられる。近年、高安古墳群は減少の一途を辿っているが、妙見寺境内1～4号墳は尾根上に連続して造られた支群が比較的良好な状態で遺存している。また、妙見寺境内4号墳の下層で確認した弥生時代墳の時期の遺構も注意される。貴重な遺跡として、保存を前提とした対応が必要である。

吉田野乃



第60図 B区土層断面図 ($S=1/80$)

23 高安古墳群(1999-586)の調査

1. 調査名：墓地建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市大字垣内400番地他13筆
3. 調査期間：平成14年8月26日～8月29日
4. 調査面積：18m²
5. 調査方法：建物建設予定地に1×10mのトレンチ(1区)を設定し、現地表下1～2mを調査した。墓地造成部分の2か所(南を2区・北を3区)に2m四方のトレンチを設定し、現地表下1.3～1.6mまでを調査した。
6. 調査概要：1区 既設道路の西側、東から西に尾根状に伸びる高まり(T.P. +102.6～105.1m)にあたる。0.3～1.7mまでが現代の盛土であつた。

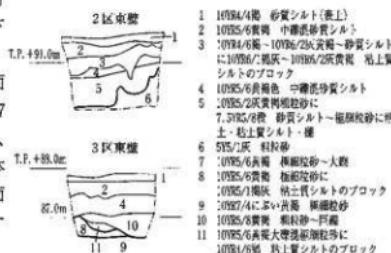
2区 1区から西南西約40m地点、南から北へ下がる緩斜面(T.P. +91～92m)に位置する。現状は竹やぶで、最終面まで竹・木の根が及んでいる。最下の6層は北西下がりとなっている。

3区 1区から西北西約40m地点の平坦面(T.P. +89m前後)に位置する。8層上面(T.P. +87～87.3m)が北東へ落ち込むのを確認しているが、当初ベースと考えた8層もブロック層のため、全体が落ち込み内部の可能性が高い。最下の9層上面(T.P. +86.6m)は平坦であるが、2区6層に対応するものと考える。

7.まとめ：1区の高まりは、付近の造成時の盛土であった。(成海)



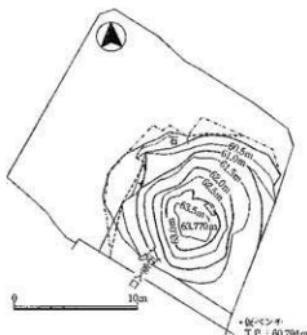
第61図 調査地設定図
(S=1/2000)



第62図 断面図(S=1/100)

24 高安古墳群(2002-236)の調査

1. 調査名：個人住宅建設に伴う発掘調査
2. 調査地：八尾市大字大庭1175番1
3. 調査期間：平成14年12月19日～12月20日
4. 調査面積：21m²
5. 調査方法：俊徳丸鏡塚の発掘調査と墳丘保存のための事前測量。
6. 調査概要：総池の南西角の道路側壁にあるKBM5(T.P. +43.747m)より仮レベルを移動する。俊徳丸鏡塚の南東角にT.P. +60.794mの仮ベンチマークのポイントを置き、俊徳丸鏡塚の墳丘を50cm単位で等高線及び墳丘輪郭の平板測量を行った。
7. まとめ：俊徳丸鏡塚の墳丘は頂上高T.P. +63.77m、墳丘の南東裾部が60.70m、北西裾部が59.0mを測り、約3.5m前後の高さがあった。



(高萩) 第63図 俊徳丸鏡塚古墳実測図(S=1/400)

25 東郷遺跡(2002-238)の調査

- 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市桜ヶ丘1丁目97、98、99、100-1
- 調査期間：平成14年9月10日
- 調査面積：13.53m²
- 調査方法：建物基礎部分に2.4×2.6mの調査区(第1区)と2.7×2.7mの調査区(第2区)を設定し、現地表下2.2m前後まで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している値(調査地の北東側道路T.P.+7.8m)を使用した。
- 調査概要：【第1区】現地表面はT.P.+8.2m前後で、以下6層の地層を確認した。1層は盛土で、厚み約1.2mを測る。2層は旧耕作土の暗灰色細粒砂混粘土、3層は中世の水田と思われる細粒砂混粘土である。4層は古墳時代前期(布留式期)の遺物が出土する粘土質細粒シルトである。5層の粘土質細粒シルト層上面では遺構を検出した(小穴3個S P 101～S P 103)。6層は細粒砂混粗粒砂で、流水堆積と思われる。

S P 101～103

S P 101は調査区のはば中央で検出した。平面形状は東西方向に長い楕円形で、長径0.5m、短径0.3mを測る。断面形状はU字形で、深さ約0.2mを測る。埋土は単一の灰色細粒砂混粘土である。土師器の破片が少量出土した。

S P 102は遺構の南側が調査区外に至るために平面形 第65図 第1区・第2区平面断面図(S=1/100)状および断面形状は不明である。埋土は単一の灰色細粒砂混粘土である。土師器の破片が少量出土した。

S P 103は遺構の南東側が調査区外に至るために平面形状および断面形状は不明である。埋土は単一の灰色細粒砂混粘土である。土師器の破片が少量出土した。

【第2区】現地表面はT.P.+8.1m前後で、以下6層の地層を確認した。堆積の状況は第1区とほぼ同じであった。5層上面で土坑1基(S K 201)を検出した。

S K 201

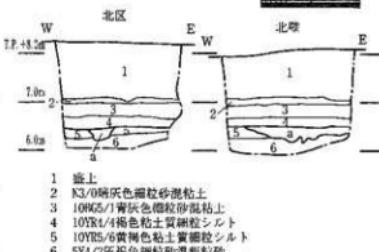
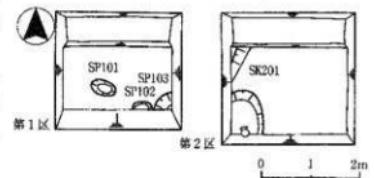
S K 201は調査区のはば全域で検出した。土坑の肩は西側で検出し、北東～南北方向に伸びていることを確認した。遺構の北、南、東側は調査区外にいたるため、平面形状および断面形状は不明である。検出した東西幅は約2.5m、南北は2.4mで、深さは約0.3mを測る。埋土は暗褐色細粒砂混粘土で炭を多く含み、また粘土のブロックが混じっていた。埋土内からは古墳時代前期の上器の破片が出土した。遺構の床では数箇所のくぼみを確認した。特に南北側で確認したくぼみは炭化物を多く含んでいた。このくぼみの底からは、口縁の一部が欠損した二重口縁壺が、口縁を北西に向かって倒れた状態で1個出土した。

出土遺物

【第1区】4層からは土師器・須恵器・瓦器の破片がコンテナ箱約1/4箱程度出土し、またS P 101～S P 103からは土師器の破片が数点程度出土している。出土した遺物のうち固化し掲載したものは2点である。1・2は4層から出土した。1は二重口縁壺で、ゆるやかに外反した後さらに外側へ外反しひらく口縁部である。内面には波状文を施す。外面には波状文を上下2段に施し、下端の波状文の上に2個1

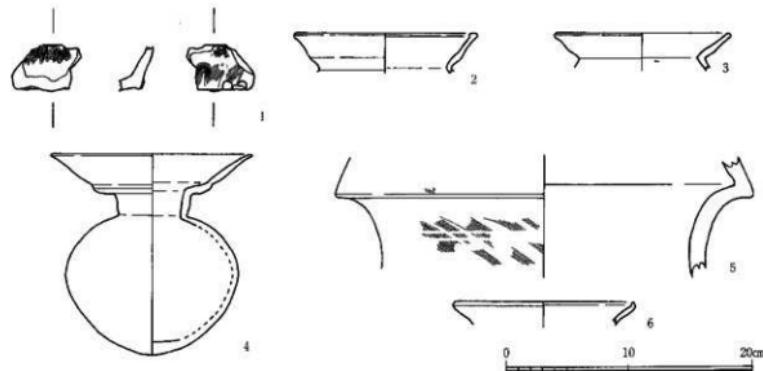


第64図 調査区設定図(S=1/1000)



第1区 a 番S P 101～103層

第2区 a 番S K 201層



第66図 出土遺物実測図 (S=1/4)

対?の円形浮文の貼り付けている。内面の波状文の施文は直線的で、鋭く尖って折り返し描いているが、外面は曲線で、ゆるやかに弧を描いて折り返している。2は古墳時代前期(布留式期)の壺の口縁部である。端部は肥厚しやや丸みのある面をもつ。

【第2区】4層からは土師器・須恵器・瓦器の破片が出土し、SK201からは、古墳時代前期の土師器の破片が多く出土した。この内図化し掲載したものは4点である。

3は4層内から出土した古墳時代前期(庄内式期)の壺である。

4~6はSK201から出土した古墳時代前期の土器で、4は二重口縁壺、5は大型の二重口縁壺、6は壺である。4は「器の表面がほとんど磨耗しているため調整は不明瞭である。しかし、口縁部には横方向のミガキが施されていたと思われる。体部の外面にも施している調整はほとんど残っていないかった。しかし、本来はミガキを丁寧に施していたものと思われる。体部内面は、ハケでナデており、体部上位から頸部にかけては指ナデによる指圧痕が残っている。5は大型の二重口縁壺の口縁で、頸部外面には左上がりのハケを施す。6は古墳時代前期(庄内式期)の壺である。外反する口縁部で、端部はつまみ上げ面をもつ。

7.まとめ:今回の調査では、古墳時代前期の遺構を検出した。特に、第2区で検出した土坑内からは完形近くまで復元可能な土器が出土していることから、この時期の集落がこの地にあったことが判明した。また、平安時代から鎌倉時代の遺物も少量ではあるが出土したことから、同時代の遺構がある可能性も考えられる。

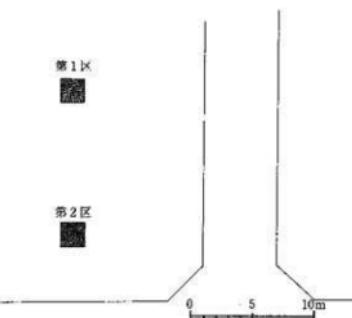
(西村)

参考文献

- ・原田昌則 1987『III 東郷遺跡(第20次調査)』『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和61年度』財團法人八尾市文化財調査研究会報告13 財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 1991『東郷遺跡—第23次・第24次発掘調査報告—』『財團法人八尾市文化財調査研究会報告29』財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 1998『XIV 東郷遺跡(第52次調査)』『財團法人八尾市文化財調査研究会報告60』財團法人八尾市文化財調査研究会

26 東郷遺跡(2002-176)の調査

1. 調査名：教会建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市桜ヶ丘1丁目31番3
3. 調査期間：平成14年9月24日
4. 調査面積：8 m²
5. 調査方法：八尾市教育委員会より指示された部分(規模約2.0×2.0m、面積約4.0m²) 2箇所について、工事により破壊される現地表下1.7m前後までを調査した。なお、調査では北側の調査区を第1区、南側の調査区を第2区と呼称した。レベル高については、八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の南西方向に位置するT字路のセンター：T.P. +7.8m)を使用した。



第67図 調査区位置図 (S=1/400)

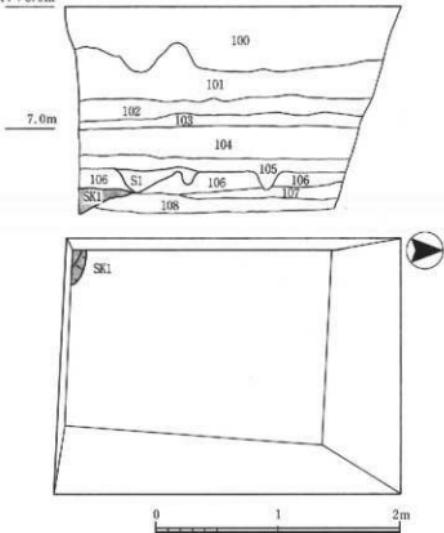
6. 調査概要：第1区 現地表(T.P. +8.000m)下0.4m前後までは、客土・盛土(100層)である。以下現地表下1.7mまでの1.3m間で8枚(101～108層)の地層を確認した。101層は灰色を呈した極粗粒砂～細繙が混在するシルト～中粒砂である。102層はオリーブ色の極粗粒砂～細繙混シルト。丸瓦の細片が混在していた。103層は灰色粘土質シルト。オリーブ灰色粘土質シルトのブロック(5～8cm大)が混在する。104層は灰色細繙混粘土質シルト～シルト。土器器細片を含む地層である。101層～104層は、攪拌を受けた淘汰不良の汚れた地層であるため、水田耕作土の可能性が高いといえる。105層は灰色の極粗粒砂～細繙混粘土質シルト。106層は灰色を呈した極粗粒砂～細繙混粘土質シルトである。上面において遺構 S 1 が構築されるようだ。107層はオリーブ灰色シルト質粘土。管状の酸化Mnが沈着している。108層は灰色のシルト質粘土。雲状の酸化Mnを極めて多く含む。上面はフラットである。本層上面でSK 1を検出した。

第2区 現地表(T.P. +7.980m前後)下0.4m前後までは、客土・盛土(200層)である。以下現地表下1.8mまでの1.4m間で8枚(201～208層)の地層を確認した。201層は灰色シルト質粘土と黄灰色シルト～細粒砂で形成されたブロック層である。202層は灰色中繙混シルト質粘土～シルト。203層は灰色粘土質シルト。オリーブ灰色粘土質シルトのブロックが混在する。204層はオリーブ黒色粘土質シルト。木片が散在する。205層はオリーブ灰色細繙混粘土質シルト～シルト。201層～205層までは、攪拌を受けた地層で、水田耕作土の可能性が高い。このうち205層については、畦畔の可能性も否定できない。206層は灰色細粒砂～中粒砂混粘土質シルトである。土器器や須恵器の細片が混在する。207層は灰色のシルト質粘土。上面はフラットである。雲状の酸化Mnを極めて多く含む。本層上面でSD 1を検出した。

検出遺構 SK 1 は、第1区の南西隅で検出した。全容は不明。埋土は暗オリーブ灰色シルト質粘土のブロックで、遺構内や埋土に遺物は含まれていなかった。SD 1 は第2区のはば中央付近で検出した。東西方向に直線的に伸びる南肩を検出したが、遺構が調査区外にさらに広がるため全容は不明。埋土は、灰色シルト～細粒砂(灰色粘土質シルトのブロックが混在)で形成されていた。遺物の出土はなし。

7.まとめ：今回の調査地周辺では、数次に亘る調査が行われてきた。この内、南東部に位置する第47次調査地や東隣する第48次調査地では、T.P. +5.8～6.8m前後で古墳時代前期～平安時代初頭までの遺構を検出している。したがって、本調査地でも、同様のレベル値において、同時期の遺構が存在する可能性が考えられたわけであるが、今回の調査成果は、それを裏付けたものといえる。ただし、調査面積が小さいこともあり、遺構の正確を決定付けることができなかつたことは残念であった。 (樋口)

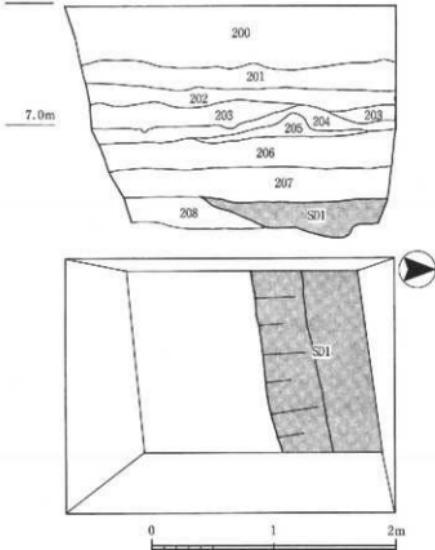
T.P. +8.0m



- 100層 寄土・盛土
101層 7.5Y5/1灰色板根粘砂～細繊混シルト～中粒砂
102層 5Y5/2灰オリーブ色粗根粘砂～細繊混シルト(ガラス片を含む)
103層 10Y4/1灰色粘土質シルト(10Y5/2オリーブ灰色粘土質汁とのブロックが混在)
104層 10Y4/1灰色細繊混粘土質シルト～シルト
105層 7.5Y4/1灰色粗根粘砂～細繊混粘土質シルト
106層 5Y4/1灰色粗根粘砂～細繊混粘土質シルト
107層 2.5GY5/1オリーブ灰色シルト質粘土
108層 10Y5/1灰色シルト質粘土
S 1 5GY1/1暗オリーブ灰色シルト質粘土
SK 1 5GY4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土

第68図 第2区平断面図(S=1/40)

T.P. +8.0m



- 200層 寄土・盛土
201層 10Y4/1灰色シルト質粘土(2.5Y5/1黄灰色シルト～細粒砂ヒブロックを形成)
202層 7.5Y4/1灰色中粗根混シルト質粘土～シルト
203層 10Y4/1灰色粘土質シルト(10Y5/2オリーブ灰色粘土質汁とのブロックが混在)
204層 10Y3/1オリーブ灰板根粘土質シルト
205層 10Y5/2オリーブ灰粗根混粘土質シルト～シルト
206層 10Y6/1灰色繊粗根砂～中粒砂混粘土質シルト
207層 10Y5/1灰色シルト質粘土
208層 5Y6/2灰オリーブ灰粗根粘砂～細根粘砂(5Y4/1灰色粘土質シルトのブロックが混在)
SD 1 5Y5/1灰色シルト～細粒砂(10Y5/1灰色粘土質シルトのブロックを含む)

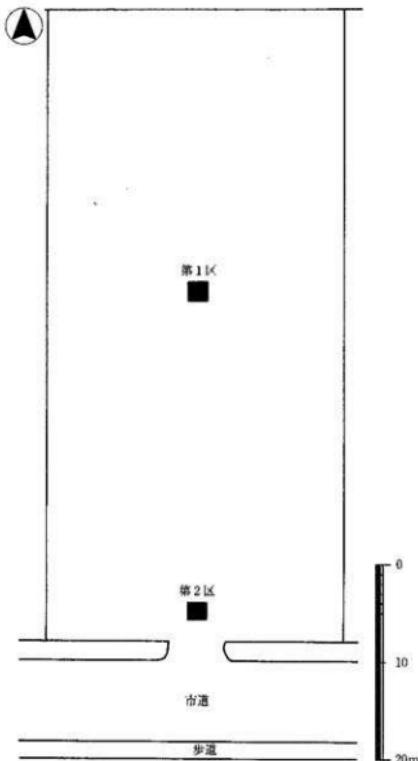
第69図 第2区平断面図(S=1/40)

27 中田遺跡(2002-67)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市八尾木北1丁目94番1、94番2、95番、96番
- 調査期間：平成14年5月29日
- 調査面積：8 m²
- 調査方法：人孔部分(規模約2.0×2.0m、面積4.0m²) 2箇所について、現地表下1.9m前後までを調査した。なお調査では、北側の調査区を第1区、南側の調査区を第2区と呼称した。レベル高については、八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の南側を東西にはしる市道上:T.P.+10.0m)を使用した。
- 調査概要：第1区 現地表下1.0m前後までは客土・盛土(100層)である。以下現地表下1.9mまでの0.9m間で、7層(101層～107層)もの地層を確認した。100層は旧耕土に相当する。105層は流水堆積層である。下方に向かうにつれて細粒化の傾向にある砂層である。106層は粘性に富む地層で、湿地帯のような静水域に形成された地層であろう。107層は細礫が混在する非常に汚れた地層である。上面において遺構の存在を確認したが、見つからなかった。遺構内埋土あるいは土壤化層の可能性が考えられる。遺構の検出はなし。

第2区 現地表下0.9m前後までは客土・盛土(200層)である。以下現地表下1.9mまでの1.0m間で、6層もの地層を確認した。201層は旧耕土に相当する。202・203層は土師器細片を極少量含む地層である。この内203層は、地層がやや汚れていることから、整地層などの可能性も否定できない。204層はシルト～極細粒砂優勢の流水堆積層である。下方に向かうにつれて細粒化の傾向にある。205層は粘性の強い湿地性の堆積層である。206層は非常に汚れた地層である。遺物などの混入は認められないが、本層上面において、遺構が存在する可能性は十分考えられる。また、本層そのものが遺構内埋土の可能性も否定できない。遺構の検出はなし。

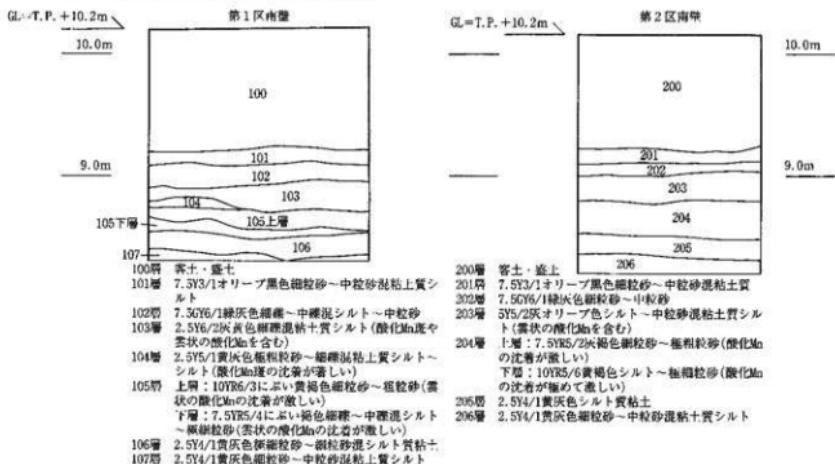
7.まとめ：今回の調査では、遺構の検出や、遺構に伴うと推測される遺物の出土は認められなかった。また、地層に含まれる遺物の量も希薄であった。したがって、各時代を通して居住域などの遺構面が存在する可能性は極めて低いといえる。注目すべき点は、第1区で確認された107層と、第2区に認められた206層である。両地層ともに土壤化の影響のためか淘汰不良の層相を呈しており、両地層上面が生活面であった可能性は極めて高い。その場合、遺構の性格としては、先述したように遺物量が希薄なことから、水田などの生産域に伴う遺構が存在する可能性が考えられる。今後の調査に期待したい。



(橋口)

参考文献

- ・古田野乃 1995 「5. 中田遺跡(94-311)の調査」『八尾市内遺跡平成6年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告書32 平成6年度公共事業 八尾市教育委員会



第71図 第1区・第2区地層断面図 (S=1/40)

28 花岡山遺跡(2002-198)の調査

1. 調査名: 大学キャンパス再整備(大学校舎建築工事)

に伴う遺構確認調査

2. 調査地: 八尾市東音寺6丁目1番地他

3. 調査期間: 平成14年9月2日～9月3日

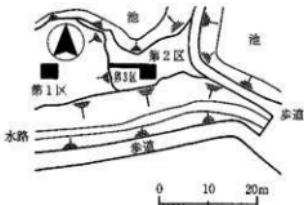
4. 調査面積: 21.6m²

5. 調査方法: 建物基礎部分に3×3mの調査区を2箇所、6×0.6mの調査区を1箇所設定し、現地表下2.0m前後まで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している値(調査地の北側道路 T.P. +47.3m)を使用した。

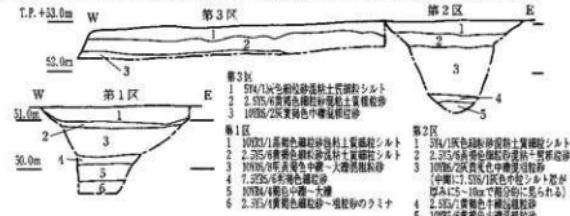
6. 調査概要: 【第1区】の現地表面はT.P.+51.3mを測り、以下6層の地層を確認した。【第2区】の現地表面はT.P.+53.1mを測り、以下5層の地層を確認した。【第3区】の現地表面は東側がT.P.+53.1m、西側がT.P.+52.8mを測り以下3層の地層を確認した。各調査区ともに遺構の検出および遺物の出土はなかった。

7.まとめ: 各地層からは出土遺物がなかった為、時代の特定は困難であった。しかし、各地区で確認した2層は、周辺の調査結果と対比させると、中世～近世頃の地層と思われる。

(西村)



第72図 調査区設定図 (S=1/1000)



第73図 第1区～第3区断面図 (S=1/100)

29 水越遺跡(2002-79)の調査

- 調査地：農家栽培用温室建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市服部川1丁目92番地他9筆
- 調査期間：平成14年6月4日
- 調査面積：約27m²

5. 調査方法：人孔部分(規模約3.0×3.0m、面積約9.0m²)3箇所について、現地表下3.0m前後までを調査した。調査では、各土坑を西から順に第1区～第3区と呼称した。レベル高については、八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の西側を南北に走る大阪外環状線：T.P.+11.0m)を使用した。

6. 調査概要：第1区 現地表下1.7m前後までは客土・盛土層である。以下現地表下3.0m前後までの1.3m間で8層(101～108層)もの地層を確認した。101層はグライ化が著しい砂層である。102層は酸化Mnの沈着が目立つシルト～極細粒砂。土師器の細片を極少量包含する。中世頃に形成された地層であろう。103層は上面が土壤化している可能性が高い地層で、上面から切り込まれた遺構らしきラインも確認できた。本層上面において、遺構が検出される可能性が非常に高いと思われる。104・105層は無遺物層。106層以下は水成層である。この内106層については、シート状に薄く堆積する砂礫層で、溢流堆積物である。付近にこの砂礫を供給した河川の存在を彷彿させる。

第2区 現地表下1.8m前後までは客土・盛土層である。以下現地表下3.0m前後までの1.0m間で8層(201～208層)もの地層を確認した。201層は旧耕土に相当する土壤化層である。203・204層はグライ化の顕著な地層である。205層はブロックで形成されている。本層そのものが遺構内埋土になる可能性も考えられる。206層以下は水成層で、下方に向かうにつれて粗粒化の傾向を見せる。

第3区 現地表下2.0m前後までは客土・盛土層である。以下現地表下3.0m前後までの1.0m間で7層(301～307層)もの地層を確認した。301層は旧耕土に相当する土壤化層である。302層はグライ化の顕著な地層である。303層はシート状に薄く堆積する砂礫層である。付近の河川から流れ込んできた、溢流堆積物であろう。305層は、5～8cm大のブロックで形成された非常に汚れた地層である。遺構内埋土そのものの可能性も否定できない。306・307層は水成層である。下方に向かうにつれて粗粒化の傾向が強くなる。なお、306層からは須恵器細片が、307層から土師器窓の窓口の細片が出土した。

7.まとめ：今回の調査地周辺では、東側約20m、及び南東側約100mの地点で、比較的大規模な調査が実施されている。調査の結果、弥生時代後期の堅穴住居をはじめ、古墳時代前期の墓域などが検出され、それぞれの時代の集落が展開することが明らかにされた。しかしながら、各時代の集落の西端については確定しておらず、その点に考慮しながら調査を進めていった。結果は、上記の通りである。明確な遺構の検出や、遺構に伴うと推測される遺物の出土は認められない。また、第3区の307層内から出土した土師器窓の細片の存在から、この深さであっても依然として弥生～古墳時代の地層に到達していない可能性も多い。したがって、先述の問題点については解決されていない。今後の調査に期待したい。



第74図 調査区位置図(S=1/800)

(窓口)

参考文献

- 坪田真一 1994 「10. 郡川遺跡第3次調査(KR94-3)」『財団法人八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会
- 成海佳子・坪田真一 1995 「27. 水越遺跡第5次調査(MK95-5)」『財団法人八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会



第75図 第1区東壁・第2区南壁・第3区南壁地層断面図(S=1/80)

30 水越遺跡(2002-82)の調査

- 調査名: 店舗建設工事に伴う遺構確認調査
- 調査地: 八尾市水越1丁目122番・123番
- 調査期間: 平成14年6月6日
- 調査面積: 9 m²
- 調査方法: 処理槽部分に3×3 mの調査区を設定し、現地表下約2.7 mまで機械と人力で掘削し、調査を行った。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している値(調査地の東側歩道上T.P.+14.83m)を使用した。

6. 調査概要: 現地表面はT.P.+15.0m前後で、以下6層の地層を確認した。6層は粘性の強い細砂で、東側に広がる生駒山地西麓部から流されて堆積した土砂と推測される。

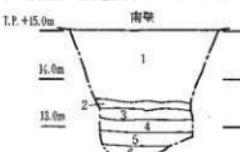
7. まとめ: 今回の調査では、遺物の出土がなかったため各層の時期は判明していない。周辺の調査からおそらく3層~6層は近世以前に相当するとと思われる。(西村)

参考文献

- 高萩千秋 1989「1 水越遺跡(第1次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告23 財団法人八尾市文化財調査研究会
- 西村公助 1997「V 水越遺跡第2次」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告57』財団法人八尾市文化財調査研究会
- 高萩千秋・青木利時 1997「VI 水越遺跡第3次」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告57』財団法人八尾市文化財調査研究会



第76図 調査区設定図(S=1/1000)



1 土
2 502/1 黄褐色細粒混結土
3 10YR3/3 黄褐色細粒混結土
4 7.5YR4/6 灰色細粒混結土
5 深褐色シルト混結土
6 10YR3/2 黑褐色粗砂混結土(粘性度高い)

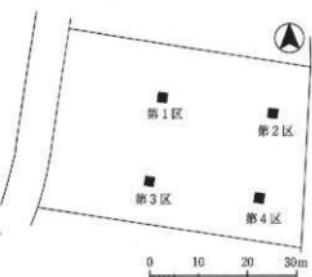
第77図 断面図(S=1/100)

31 八尾南遺跡(2001-358)の調査

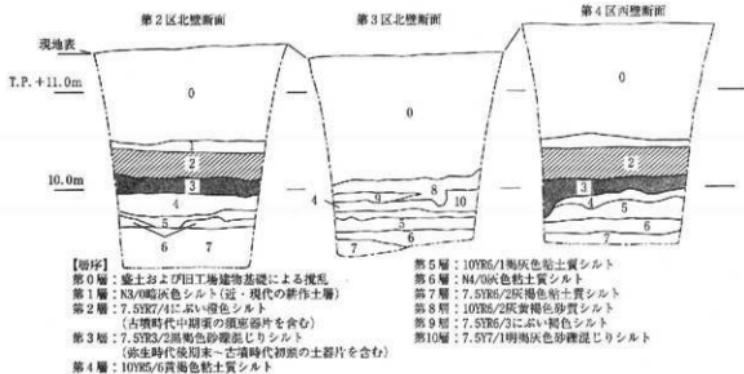
- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市若林町2丁目5番
- 調査期間：平成14年5月27日
- 調査面積：16m²

5. 調査方法：分譲住宅建設に先立ち、予定地内に2m四方の調査区を4箇所設定し、現地表(T.P.+11.7~11.4m)下約3mまで重機と人力を併用して調査を行った。

6. 調査概要：検出遺構 第1区は現地表から最終深度まで、旧工場の建物基礎によって搅乱されていた。第2区と第4区では、T.P.+10.4~10.2m付近で古墳時代中期に比定される須恵器(蓋杯)の破片が少量出土した。さらに両地区ではその下層にあたるT.P.+10.2~9.8m付近で弥生時代後期～古墳時代初頭に比定される土器片が少量出土した。第3区については、既述の第2区・第4区の弥生時代後期～古墳時代中期に対応するレベルにおいて、シルトと砂層からなる水成層が堆積していたが、遺物は出土しなかった。



第78図 調査区位置図(S=1/100)



第79図 第2区～第4区 壁断面図(S=1/50)

出土遺物 出土遺物の中で固化できたものは、第4区の第3層からの小型鉢(1)と高杯(2)の2点である。1は底部のみ残存で、体部は椀形を有するものと思われる。底部は底径3.6cmを測る「ハ」の字形に開く高台で、色調は橙色を呈する。2は杯部の破片であるが、口縁の外反度と長さが特徴的である。口径は推定で20.0cmを測るものと思われる。色調は浅黄褐色を呈する。いずれも器面の磨滅が著しいが、形態から見て弥生時代後期末頃(河内VI-1様式)に比定されるものである。

7.まとめ：当地点から南へ約50m地点では、平成7年度に当研究会において調査(Y S94-21)が行われており弥生時代後期末を主とする遺構・遺物が検出されている。それは層位・レベル的および出土遺物の年代観から、今回の遺構確認調査の第2区・第3区にはほぼ対応するものであり、当該期の遺構を検出するまでには至らなかつたが、当地まで生活面が広がっていることを示唆するものである。



(岡田) 第80図 第4区～第3層出土遺物
実測図(S=1/4)

32 八尾南遺跡(2001-491)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市若林町2丁目10番、12番、13番、15番
- 調査期間：平成14年7月9・11日
- 調査面積：28m²
- 調査方法：人孔部分に約2×2mの調査区を7箇所(計28m²)設定し、工事掘削深度(GL-1.2~2.0m)まで調査した。調査区の名称は北西から1区～7区とし、各調査区とも機械と人力を併用して調査を行った。
- 調査概要：〈1区〉 約T.P.+10.6mの4層、約T.P.+10.3mの9層は遺物包含層で、共に西から東に下がる堆積である。遺構埋上への可能性があり、あるいは調査区東側に流路・溝等の存在が考えられる。北壁では4層下面・9層上面で遺構状の落ちが認められる。4・9層からは弥生時代後期の土器が少量出土している。

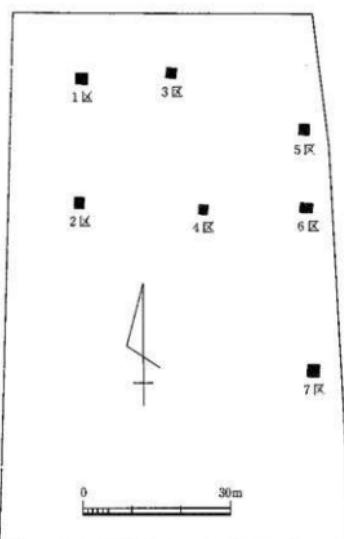
〈2区〉 約T.P.+10.7mの13層、約T.P.+10.4mの17層が遺物包含層である。13層からは時期不明の土器が少量出土した。17層は弥生時代後期～庄内式期の土器を非常に密に含んでおり土器集積の状況を呈していた。西壁では13層下面で遺構状の落ちが認められる。

16層の細粒砂ブロック混じり粘土層は、当調査区でのみ見られた層で、整地層の可能性がある。17層出土土器は弥生時代後期中葉を主とし、庄内式土器が少量含まれる。弥生土器(2-壺、3-長頸壺、4-高杯、5-9-壺)を固化した。2は弥生時代に通有に認められる形態の壺で、口径14.0cm・器高6.8cm・つまみ径3.3cmを測る。3は口径13.7cm・頸部高12.4cmを測る。4は同一個体と思われる口縁部を図上で接合したもので、復元口径28.8cm・器高18.6cm・脚部径16.2cmを測る。円孔は5個に復元できる。色調は淡灰褐色、断面暗灰色である。壺はいずれも口縁端部を上外方に長くつまみ上げるものである。外向調整はタタキ・ハケ・タタキ後ハケがある。7は約2/3が残存しており、口径16.2cm・器高24.4cmを測る。6・7が角閃石を含み褐色を呈する生駒西麓産の胎土である。

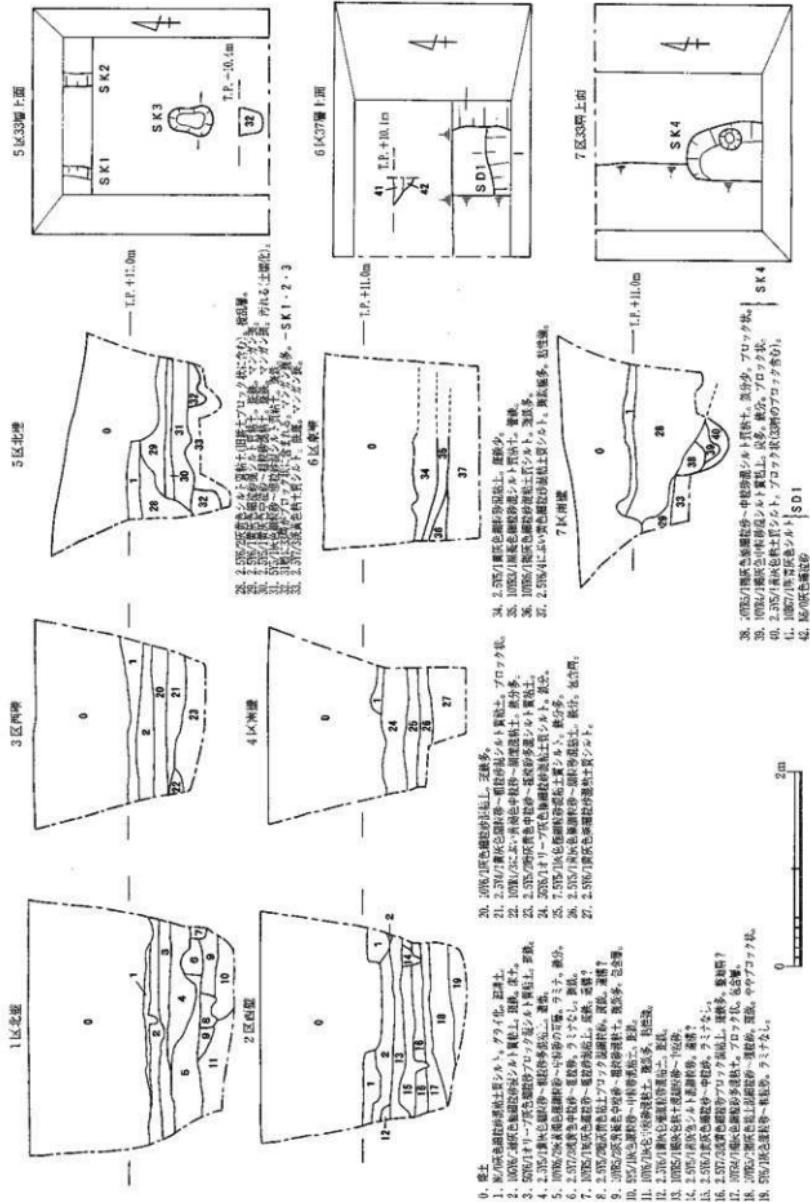
〈3区〉 約T.P.+10.6mの21層が遺物包含層で、弥生時代後期～庄内式期の土器を非常に密に含んでいる。北に下がる堆積で、落ち込み状の遺構である可能性がある。21層出土の壺1点(1)を固化した。1は口縁部を断面三角形に大きく肥厚させるもので、外面は棒状浮文・刻み目により加飾される。色調は淡橙色である。庄内式期のものと考えられる。

〈4区〉 約T.P.+10.5mの26層が遺物包含層で、弥生時代後期～庄内式期の土器を少量含んでいる。平面・断面で遺構は認められなかった。

〈5区〉 約T.P.+10.6mの30層、約T.P.+10.5mの31層が遺物包含層である。33層上面で土坑3基(SK1~3)を検出した。SK1・2は北側溝内で確認したもので形状等の全容は不明である。深さはSK1が約30cm、SK2が約18cmを測る。SK3は南北45cm・東西31cmを測る平面不定形な土坑で、断面逆台形を呈し、深さは25cmを測る。埋土はいずれもベース層をブロック状に含むシルト質粘土である。遺物は出土していない。30層からは5~6世紀の須恵器が1点出土した。31層は弥生時代後期～庄内式期の土器を密に含んでおり、他にサヌカイト製石小刀(11)が1点出土している。11は最大長7.5cm・



第81図 調査区位置図(S=1/1000)

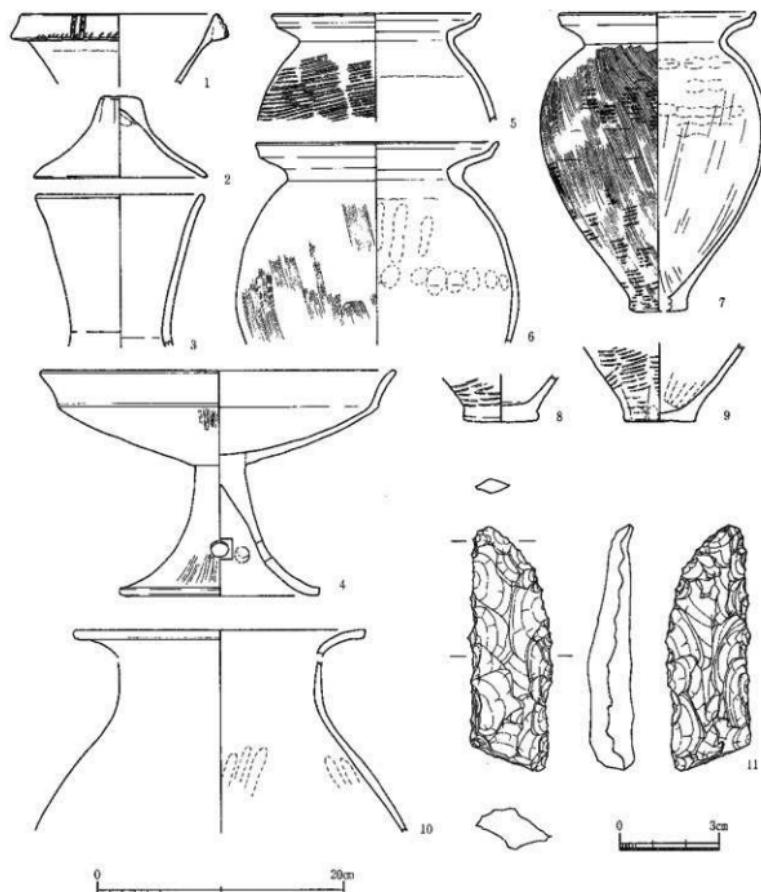


第82図 断面・断面図 (S=1/50)

最大幅2.6cm・最大厚1.4cmを測る。両面とも両側刃からの調整剥離が施され、中心に稜が生じ断面形状は菱形を呈する。

〈6区〉 約T.P.+10.6mの35層が遺物包含層で、時期不明の土器が少量出土した。34・35層は南東に下がる堆積状況で、落ち込み状の遺構の可能性がある。調査区南端の37層上面では東西方向の流路、あるいは溝状の遺構(SD1)の北肩を検出した。SD1は検出部分で長さ70cm・幅25cm・深さ20cmを測る。埋土は2層からなる流水堆積層である。遺物は出土していない。

〈7区〉 約T.P.+10.9mの35層が遺物包含層で、時期不明の土器が少量出土した。調査区南部、約T.P.+10.6mの33層上面で土坑1基(SK4)を検出した。南は調査区外に続き、西は28層により削平さ



第83図 出土遺物(S=土器:1/4、石器:2/3)

れている。検出部分からは平面梢円形を呈すると思われ、規模は南北78cm以上・東西60cm以上・深さ58cmを測る。底部では直径約22cmを測る円形のピット状の落ちがみられる。埋土は3層からなり、全体にブロック状を呈するもので、下層にはベース層のブロックが含まれる。また中層には炭が多く含まれている。遺物は弥生時代中期頃に比定される広口壺(10)の他、時期不明の土器が少量出土している。10は復元口径23.6cmを測る。胎土中に1~10mmの極粗粒砂~中砂を多量に含んでいる。色調は外面赤褐色、内面淡褐色。

7.まとめ: 調査地全域で弥生時代後期~庄内式期の遺物包含層が確認され、平面・断面で遺構も検出された。特に2区の17層、3区の21層は土器を多量に含んでいる。南側で実施した第21次調査では、集落を区画するような大規模な溝等、当該期の遺構・遺物が多く検出されており、この集落域の北側への広がりが確認された。なお7区SK4は弥生時代中期の遺構である可能性があり注意を要する。レベル的には弥生時代後期~庄内式期とほぼ同じといえる。第21次調査では中期の遺構は検出されていないが、後期の溝から少量の中層の土器が出土していることからも、周辺に中期の集落域が存在する可能性がある。

(坪田)

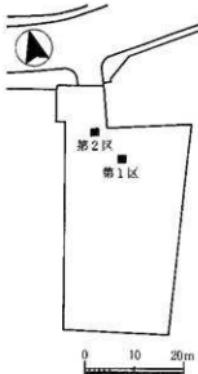
註

- 註1 坪田真一 1998 VI 八尾南遺跡(第21次調査)『財団法人八尾市文化財調査研究会報告61』財団法人八尾市文化財調査研究会

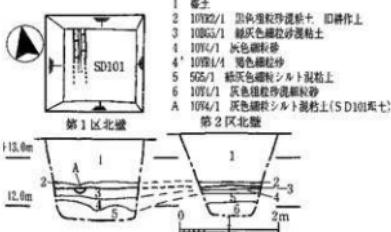
33 弓削遺跡(2002-66)の調査

- 調査名: 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地: 八尾市志紀町南3丁目120番、172番、217番、218番
- 調査期間: 平成14年5月30日
- 調査面積: 8m²
- 調査方法: 今回の調査は人孔部分の2箇所で、現地表下約1.7mまで機械と人力で掘削した。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の北西側道路上T.P.+13.1m)を使用した。
- 調査概要: 【第1区】現地表の標高はT.P.+13.4mで、以下5層の地層を確認した。3層~5層は砂層や粘土層である。3層の上面で清(SD101)を検出した。4層の砂層内からは上器の体部の破片が2点出土した。この上器は、表面は磨耗しており詳しい時期は不明であるがおそらく古墳時代以降のものと思われる。【第2区】現地表の標高はT.P.+13.5mで、以下6層の地層を確認したが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。
- まとめ: 第1区で検出したSD101は、遺物の出土がなかったため時期は不明であるが、旧耕作土直下で検出したことから、近世の遺構と推定される。また、両調査区で確認した3層~5層は、西隣の既往調査との対比からおそらく古墳時代以降に相当する地層と思われる。

(西村)



第84図 調査区設定図(S=1/1000)



第85図 1区・2区平断面図(S=1/100)

34 弓削遺跡(2002-23)の調査

- 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市志紀町南3丁目180番、181番
- 調査期間：平成14年8月19日
- 調査面積：48m²

5. 調査方法：建物基礎部分4箇所(1箇所の規模3×4m)の調査を行った。調査区は南東側を第1区、北東側を第2区、南西側を第3区、北西側を第4区とする。今回の調査では、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の北側道路上T.P.+13.1m)を使用した。調査地の現地表面の標高はT.P.+12.8mである。

6. 調査概要：【第1区】現地表下約2.5mまでに7層の地層を確認した。1層は盛土で、2層は旧耕作土である。4層は粗粒砂～細粒砂で流水堆積層である。6層は黒色に近い暗青灰色の粘土で、植物遺体を含んでおり、弥生土器および古式土師器などの遺物が多く出土した。

【第2区】現地表下約2.5mまでに7層の地層を確認した。1層は盛土で、2層は旧耕作土である。4層は5枚に分けられる。4～5～4～3層が堆積した後、シルトを搔きあつめ、部分的に盛り上げた後、4～1層が堆積している状況が断面で確認できた。シルトの盛り上げについては、平面的な広がりが確認できていないため、遺構であるかしないかの判断はできなかった。しかし、なにかの要因で意識的に盛り上げたものであると思われる。6層は第1区と同様の遺物が出土している。

【第3区】現地表下約2.8mまでに7層の堆積を確認した。1層は盛土で、2層は旧耕作土である。4層は流水堆積層で、上下2枚に分けられる下層が粘土質のシルトで、上層が粗粒砂である。6層からは第1区・第2区と同様の遺物が出土している。

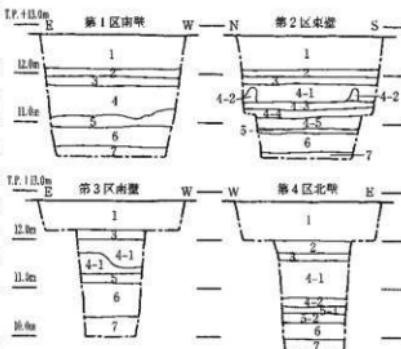
【第4区】現地表下約3.1mまでに7層の堆積を確認した。1層は盛土、2層は旧耕作土である。4層は流水堆積層である。上下2枚に分けられ下層が細粒砂で、上層が粗粒砂である。6層からは第1区～第3区と同様の遺物が出土している。

出土遺物 第1区～第4区の6層内からは弥生土器、須恵器および石器が出土した。出土した遺物は、その大半が土器である。この内図化し掲載したものは25点で、調査区毎に記す。

【第1区】1～3は弥生時代後期の壺である。1は口縁外面に凹線を施している。2は口縁部外面に横排列点文施し、円形竹管を押捺した浮文を等間隔に貼り付けている。3は二重口縁壺と思われ、端部は凹線状に窪んでいる。4は弥生時代後期の高杯の杯部～脚部で、脚部は中空である。5～8は弥生時代後期の壺で、5の体部外面中位から下位には左上がりのタタキと右上がりのタタキを施す。6の口縁部は丸みある面をもつ。体部外面は右上がりのタタキの後、ハケを施す。7は「く」の字に折れ曲がり外反する口縁部で、端部は上げ面をもつ。体部外面には右上がりのタタキを施し、内面は横方向のハケを



第86図 調査区設定図
(S=1/1000)



第1区	1
2	KD/1褐色細粒砂質粘土 旧耕作土
3	KD/2褐色細粒砂質粘土
4	2.5mBS/5褐色細粒砂質粘土
5	10BS/5褐色細粒シルト質粘土
6	5BS/5褐色細粒シルト質粘土
7	5BS/5褐色細粒シルト質粘土

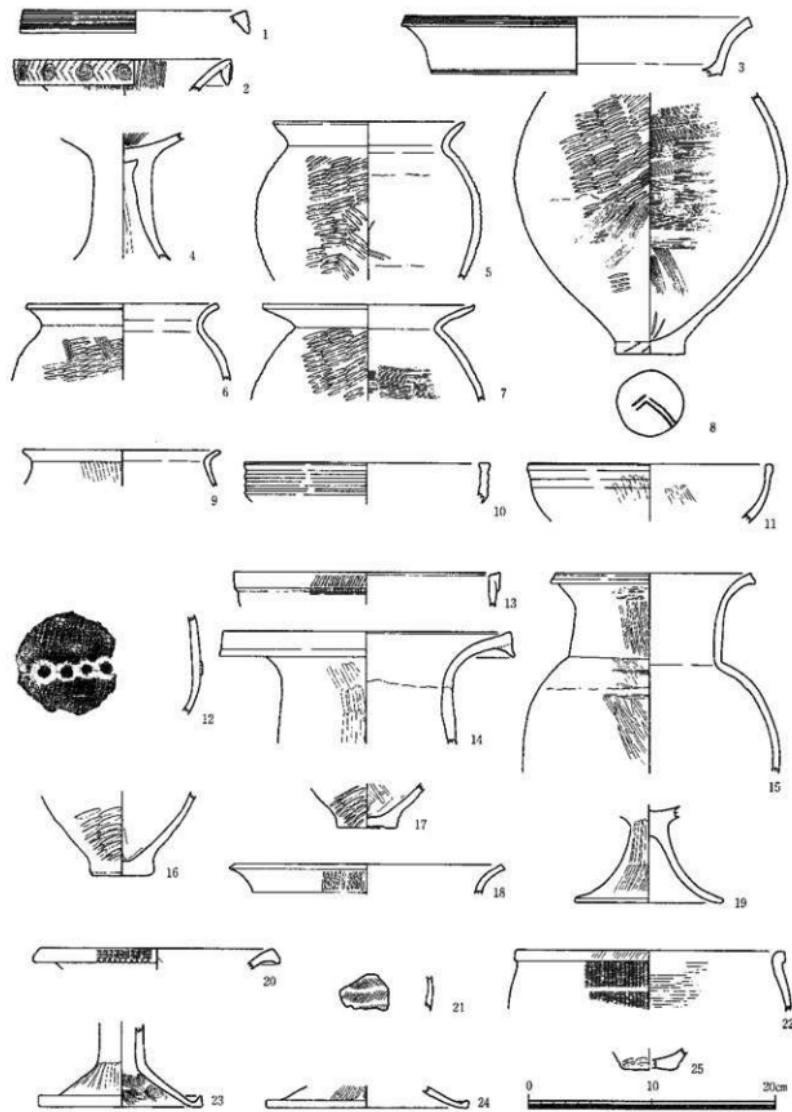
第2区	1
4-1	10BS/4褐色細粒砂質粘土
4-2	7.5BS/2褐色細粒シルト
4-3	7.5BS/1褐色細粒シルト
4-4	5BS/1褐色細粒シルト質粘土
4-5	7.5BS/2灰褐色細粒砂質粘土、相模砂、粗粒シルトのラミナ

第3区	1
4-1	10BS/4褐色細粒砂質粘土
4-2	10BS/1褐色細粒シルト質粘土
4-3	10BS/1褐色細粒シルト質粘土
4-4	5-2 3.5BS/1褐色細粒砂質粘土

第4区	1
4-1	10BS/4褐色細粒砂質粘土
4-2	10BS/1褐色細粒シルト質粘土
4-3	10BS/1褐色細粒シルト質粘土
4-4	5-2 3.5BS/1褐色細粒砂質粘土

第87図 第1区～第4区断面図(S=1/100)

施す。8の体部外面下位から中位には右上がりのタタキを施した後ハケやナデによりタタキが消される部分がある。中位には粘土接合痕があり、右上がりのタタキを上位まで施す。内面は下位に縦方向、中位から上位に横方向のハケを施す。底部内外面にヘラ状工具の痕跡があり、底面にはヘラ記号を施す。



第88図 出土遺物実測図($S=1/4$)

【第2区】9は弥生時代中期の壺、10は弥生時代中期の高杯、11は弥生時代中期の鉢である。9の体部外面は縦方向のミガキを施す。10の口縁部外面には凹線文を施す。11は椀形の鉢と思われ、口縁部外面には凹線状の窪みが確認できる。

【第3区】12は弥生時代中期の壺、13は弥生時代中期の鉢である。12は体部であり、外面には籠状文を施した後に円形浮文を貼り付ける。この土器は、本来壺として機能したものと考えられるが、何らかの要因で破損し、その破片を円板状に打ち欠いて土製品にした可能性が考えられる。13は口縁端部外面に列点文を施す。14・15は弥生時代後期の壺、16・17は弥生時代後期の壺、18・19は弥生時代後期の高杯である。14は外反する口縁部で端部は垂下し面をもち、外面には縦方向のミガキを施す。15は球形の体部から直立する頸部を経て外反する口縁部へいたる。口縁端部は面を持ち、凹線状の窪みが確認できる。体部外面は左上がりの斜め方向のミガキを施し、上位はハケのち横方向のミガキを施し、粘土接合の痕跡が残る。頸部には縦方向、口縁部には横方向のミガキを施す。16・17は外面タタキを施す。18は外反する口縁部で、端部に面をもつ。外面には縦方向のミガキを平行に施す。19の柄はハの字にゆるやかにひらく。外面に縦方向のミガキを施す。

【第4区】20・21は弥生時代中期の壺、22は弥生時代中期の鉢、23・24は弥生時代中期の高杯である。25は弥生時代後期の壺である。20は外反する口縁部で端部は垂下し面をもつ。口縁端面には櫛描籠状文を施すし、垂下した端部にはキザミ目を施す。21の外面には、ヘラと思われる工具で、綾杉状に刻む文様を施している。22は体部外面に櫛描籠状文、口縁部外面に列点文を施す。内面は横方向のミガキを施す。23は筒状の脚柱部から屈曲し「ハ」の字にひらく裾部へ至る。端部は上方へつまみ上げ、外側に面をもつ。裾部外面にミガキ、内面にハケを施す。24は「ハ」の字にひらく裾部で、端部は上方へつまみ上げ、外側に面をもつ。裾部外面にミガキを施す。25は突出する平底で、外面に右上がりのタタキを施す。

7.まとめ：各調査区ともにT.P.+11.6~12.0m付近で約0.7~0.9mの厚さの砂層(4~1~4~5層)を検出した。この砂層は、流水堆積で、おそらく古墳時代に堆積したと考えられる。さらにその下のT.P.+10.3~11.1m付近では、厚さ約0.35~0.7mの弥生時代中期~後期の土器や石器および上師器や須恵器を含んでいる地層(6層)を確認した。6層から出土した遺物の中には完形近くまで復元が可能なものも含まれていたことから、おそらく遺構が存在していた可能性が高いと考えられる。

なお、各調査区ともに4層から湧水が多くあり、壁面が崩れるおそれがある危険な状況であったため、平面的な調査はできなかった。したがって6層については重機で掘削し遺物を採取した。(西村)

参考文献

- ・西村公助 1985「8.弓削遺跡(第1次調査)」「昭和59年度事業概要報告」財団法人八尾市文化財調査研究会報告7 財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・北野 重 1993「本郷遺跡 1991-1992年度」柏原市教育委員会
- ・藤井淳弘 1999.3「13.弓削遺跡(98-380)の調査」「八尾市内遺跡平成10年度発掘調査報告書I」八尾市文化財調査報告40 平成10年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・酒 崇 1999.3「弓削遺跡(97-444)の調査」「八尾市内遺跡平成10年度発掘調査報告書II」八尾市文化財調査報告41 平成10年度公共事業 八尾市教育委員会
- ・酒 崇 2000.3「弓削遺跡発掘調査報告書」八尾市文化財紀要10 八尾市教育委員会文化財課
- ・森木めぐみ 2001「X III 弓削遺跡 第2次調査(YGE99-2)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告67」 財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・藤井淳弘 2001.3「14.弓削遺跡(1999-429)の調査」「八尾市内遺跡平成12年度発掘調査報告書」八尾市文化財調査報告44 平成12年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・酒 崇 2001.3「15.弓削遺跡(1999-524)の調査」「八尾市内遺跡平成12年度発掘調査報告書」八尾市文化財調査報告44 平成12年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・高萩千秋 2002「II弓削遺跡 第3次調査(YGE2000-3)」「八尾市立埋蔵文化財調査センター報告3 平成13年度」財団法人八尾市文化財調査研究会

図版1 植松遺跡（2002-35）の調査・植松遺跡（2002-259）の調査・老原遺跡（2002-252）の調査



植松2002-35 調査地周辺(北から)



植松2002-35 全景(南から)



植松2002-259 1区(西から)



植松2002-259 3区(南西から)



植松2002-259 4区(南東から)



植松2002-259 5区(北東から)



老原2002-252 調査風景(西から)



老原2002-252 東壁(西から)

図版
2

太田遺跡

(2001
510)



太田2001-510 調査地周辺(北から)

の調査・太田川遺跡

(2001
451)



太田川2001-451 調査地周辺(北西から)

の調査・太田川遺跡

(2002
281)



太田川2002-281 調査地周辺(南東から)

の調査・恩智遺跡

(2001
352)



恩智2001-352 調査地周辺(南東から)



太田2001-510 第1区北壁(南から)



太田川2001-451 全景(北から)

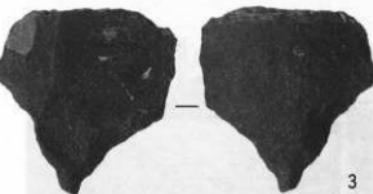
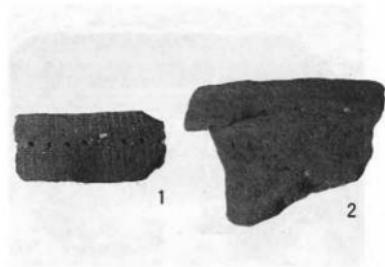


太田川2002-281 第2区西壁(北東から)



恩智2001-352 調査区北壁断面

図版3 恩智遺跡(2001-352)の調査・恩智遺跡(2002-181)の調査・恩智遺跡(2002-224)の調査・樂音寺遺跡(2002-293)の調査



恩智2001-352 出土遺物



恩智2002-181 調査地周辺(南東から)



恩智2002-224 調査地周辺(南東から)



樂音寺2002-293 調査地周辺(西から)



恩智2002-181 西壁(北東から)



恩智2002-224 西壁面



樂音寺2002-293 全景(南から)

図版 4
木の本遺跡
(2002
364)
の調査



木の本2002-364 調査地周辺(北から)



木の本2002-364 第5区柱根検出状況(北東から)



木の本2002-364 第6区全景(北から)



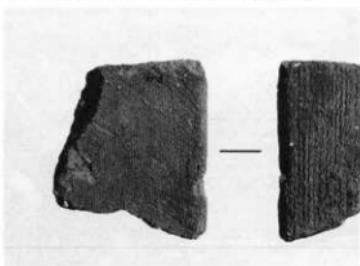
木の本2002-364 第5区(北から)



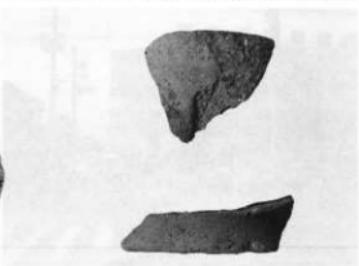
木の本2002-364 第5区柱根検出状況(北東から)



木の本2002-364 西壁および柱根検出状況(東から)



木の本2002-364 出土遺物



図版 5 久宝寺遺跡（2002—145）の調査・久宝寺遺跡（2002—199）の調査・久宝寺遺跡（2002—285）の調査・郡川遺跡（2002—65）の調査



久宝寺2002-145 調査地全景(西から)



久宝寺2002-199 全景(東から)



久宝寺2002-285 調査地周辺(南東から)



郡川2002-65 1区西壁



久宝寺2002-145 第1区西壁



久宝寺2002-199 西壁



久宝寺2002-285 第1区西壁(東から)



郡川2002-65 3区北壁

図版 6 郡川東塚古墳

(2002)

153

の調査・小阪合遺跡

(2002)

294

・成法寺遺跡

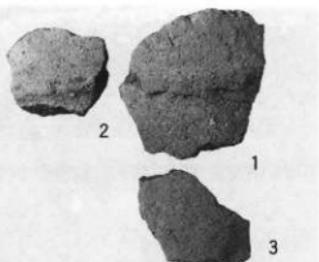
(2002)

266

の調査



郡川東塚古墳2002-153 調査区周辺(西から)



郡川東塚古墳2002-153 出土遺物



小阪合2002-294 調査地周辺(南から)



成法寺2002-266 調査地周辺(西から)



郡川東塚古墳2002-153 墳輪片検出状況(南から)



郡川東塚古墳2002-153 出土遺物



小阪合2002-294 第1区西壁(東から)



成法寺2002-266 第1区全景(南から)

図版 7 神宮寺遺跡
(2001—64) の調査



神宮寺2001-64 調査地周辺(南東から)



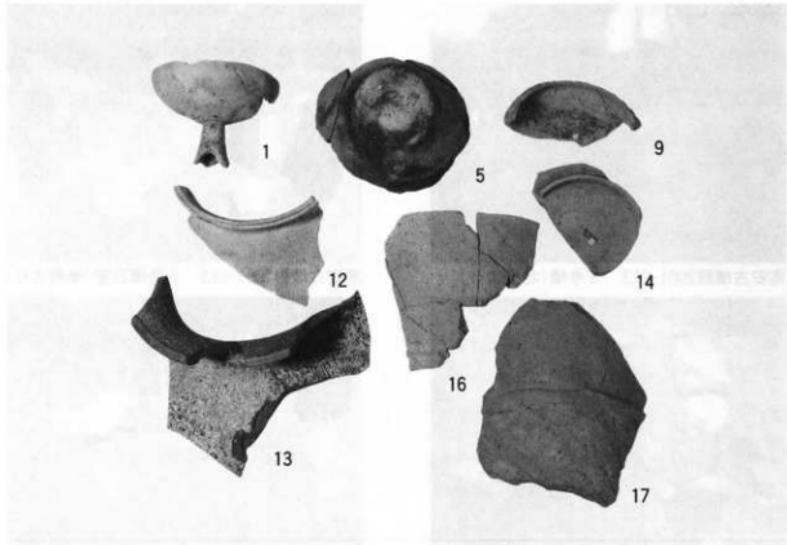
神宮寺2001-64 第2区北壁断面



神宮寺2001-64 第1区南壁断面



神宮寺2001-64 第3区西壁断面



神宮寺2001-64 出土遺物

図版
8

神宮寺遺跡

2002
280



神宮寺2002-280 調査地周辺(南東から)

の調査・太子堂遺跡

2002
204



太子堂2002-204 1区北壁

の調査・高安古墳群

2001
213



高安古墳群2001-213 3号墳(北西より)

の調査



高安古墳群2001-213 3号墳(北東より)



神宮寺2002-280 第1区北壁(南から)



太子堂2002-204 2区南壁



高安古墳群2001-213 3号墳石室(南西より)



高安古墳群2001-213 3号墳石室基礎地業土層



高安古墳群2001-213 3号墳第2区



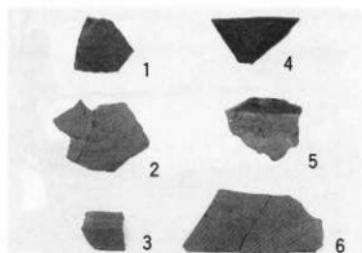
高安古墳群2001-213 4号墳(南西より)



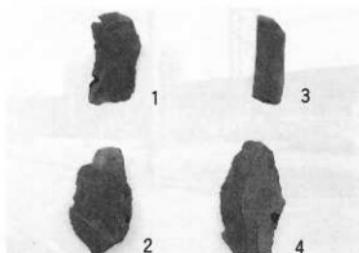
高安古墳群2001-213 4号墳第1区北トレンチ



高安古墳群2001-213 4号墳第1区トレンチ



高安古墳群2001-213 A区・B区出土土器



高安古墳群2001-213 B区出土石器剥片

図版
10

高安古墳群
(1999)

586



の調査・高安古墳群

(2002)

236



の調査・東郷遺跡

(2002)

238



東郷2002-238 調査地周辺(北東から)

東郷2002-238 第2区北壁(南から)

図版 11 東郷遺跡(2002-238)の調査・東郷遺跡(2002-176)の調査・中田遺跡(2002-67)の調査



東郷2002-238 第2区検出状況(西から)



東郷2002-238 第2区土坑内遺物出土状況(北から)



東郷2002-238 出土遺物



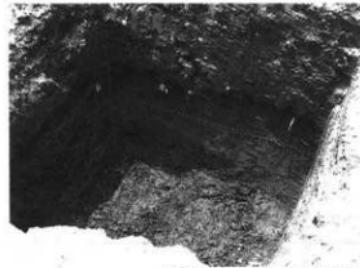
東郷2002-176 第1区SK1検出状況(東から)



東郷2002-176 第1区SD1検出状況(南東から)



中田2002-67 調査地全景(南から)



中田2002-67 第1区南壁

図版 12 花岡山遺跡 (2002-198) の調査・水越遺跡 (2002-79) の調査・水越遺跡 (2002-82) の調査・八尾南遺跡 (2001-358) の調査



花岡山2002-198 調査地断面(北東から)



水越2002-79 調査地周辺検出状況(北西から)



水越2002-82 調査地周辺(南東から)



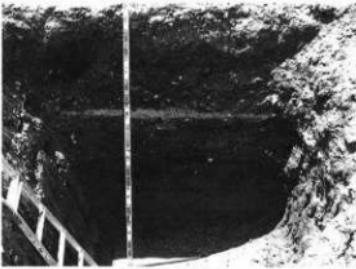
八尾南2001-358 調査地周辺(南西から)



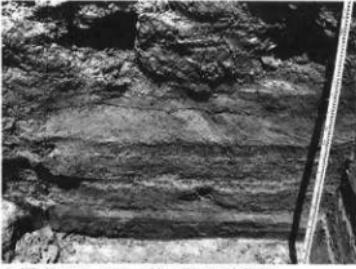
花岡山2002-198 第2区全景(北から)



水越2002-79 第1区東壁



水越2002-82 南壁(北から)



八尾南2001-358 第1区北壁断面

図版
13

八尾南遺跡（2001
358）の調査・八尾南遺跡

（2001
358）



八尾南2001-358 第4区西壁断面



八尾南2001-491 7区全景（北から）



八尾南2001-491 5区全景（南から）



弓削2002-66 調査地周辺（北西から）

（2001
491）の調査・弓削遺跡

（2002
66）の調査



弓削2002-66 第1区全景（南から）



弓削2002-23 調査地周辺（南東から）

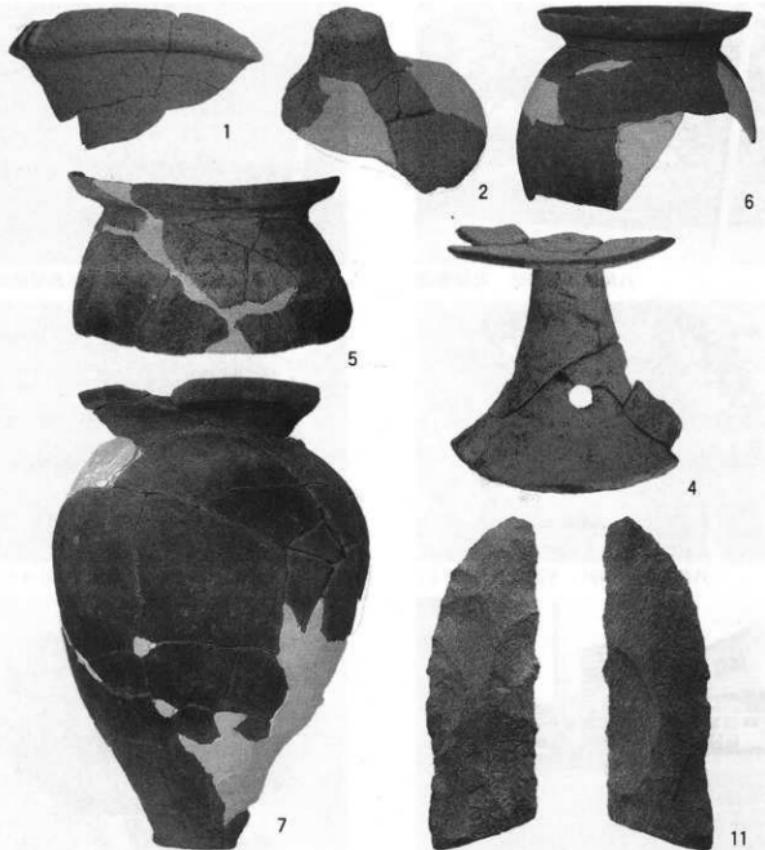
（2002
23）の調査

（2002
23）の調査



弓削2002-23 第1区南壁（北から）

図版
14
八尾南遺跡
(2001
491)
の調査・弓削遺跡
(2002
23)
の調査



八尾南2001-491 出土遺物



八尾南2001-491 出土遺物



報告書抄録

ふりがな	やおしないいせきへいせい14ねんどはくつちょうさはうこくしょ										
書名	八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書										
調査名	平成14年度国庫補助事業										
卷次											
シリーズ名	八尾市文化財調査報告										
シリーズ番号	4.8										
編著者名	岡田清一・高萩千秋・坪田真・成海佐子・西村公助・強利・裏藤井淳弘・古田野乃										
編集機関	八尾市教育委員会										
所在地	〒581-0003 大阪府八尾市本町1丁目1番1号 ☎ 0729-24-8555										
発行年月日	西暦2003年3月31日										
所収遺跡名	所	在	地	コ	ド	北	東	西	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
	市町村	遺跡番号		市	町	村					
城長遺跡	八尾市水領町2丁目47番2	27212	63	343633	1353554	20020718	21.6		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
城松遺跡	八尾市水領町6丁目20番、24番、27番及び 28番	27212	63	343636	1353537	20020904	42		分譲(ハイツ)に伴う遺跡確認調査		
色草遺跡	八尾市木原1丁目13番、15番及び16番、17 番、19番、20番、22番、23番、24番の各 番地	27212	38	343622	1353627	20021003	9		店舗建設に伴う遺跡確認調査		
木田遺跡	八尾市木原3丁目148-1、154、154-3	27212	68	343522	1353530	20020522	21.8		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
木田中遺跡	八尾市木原1丁目H76-2、76-3	27212	55	343755	1353818	20020822	9		共同住宅建設に伴う遺跡確認調査		
木田山遺跡	八尾市木原1丁目H89、90	27212	55	343753	1353814	20021127	18		分譲(店舗別売物販売)に伴う遺跡 確認調査		
豊原遺跡	八尾市豊原北2丁目6-1の一部	27212	30	343636	1353738	20020523	9		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
豊原遺跡	八尾市豊原北1丁目631-7	27212	30	343623	1353813	20020805	2		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
恵寺遺跡	八尾市恵智町1丁目29番、28番の各一 部	27212	30	343632	1353629	20021122	5		個人住宅建設に伴う発掘調査		
宝塚遺跡	八尾市宝塚町3丁目33	27212	53	343822	1353826	20020301	9		病院建設に伴う遺跡確認調査		
大の木遺跡	八尾市木の木2丁目20、43、45	27212	35	343555	1353519	20021204-1213	54		遺跡範囲確認(土地所有者開削)に伴う遺跡確認調査		
宝塚遺跡	八尾市宝塚町1丁目53-1、53-2、53-3	27212	23	343715	1353540	20020905	12		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
久宝寺遺跡	八尾市久宝寺町1丁目137番の一部、38番の一 部	27212	23	343713	1353547	20020925	4		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
久工寺遺跡	八尾市久宝寺4丁目111番、112番、113番 の一部	27212	23	343720	1353533	20021105	24		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
郡川遺跡	八尾市郡川2丁目33番1	27212	60	313716	1353822	20021127	27		骨董美術老人ホーム建設に伴う遺跡確認調査		
郡川遺跡	八尾市郡川3丁目36-2	27212	14	343711	1353818	20020801	1.1		個人住宅建設に伴う発掘調査		
小笠原遺跡	八尾市寶山町4丁目163、165-2、166	27212	40	343708	1353654	20020209	14.09		社会福祉施設建設に伴う遺跡確認調査		
成仏寺遺跡	八尾市神本町1丁目108番1-108番3- 109番-110番-111番-114番-115番	27212	73	343716	1353620	20021008	9		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
神貴寺遺跡	八尾市神貴町5丁目171、172	27212	49	343553	1353806	20020909	46		共同住宅建設に伴う小規模発掘調査		
神貴寺遺跡	八尾市神貴町5丁目130番-131番	27212	49	343554	1353811	20021111	7.9		個人住宅建設に伴う発掘調査		
人子遺跡	八尾市神奈太子堂1丁目87-39-44	27212	62	343633	1353513	20020813	8		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
鳥居古墳群	八尾市鳥居古墳5丁目内地	27212	12	343649	1353846	20021018-2026	50		墓地造成に伴う遺跡確認調査		
鳥居古墳群	八尾市大字元内400番地13番	27212	12	343653	1353829	20020826-29	18		墓地造成に伴う遺跡確認調査		
鳥居古墳群	八尾市大字大原117番1	27212	12	343724	1353853	20021119-20	21		個人住宅建設に伴う発掘調査		
良基遺跡	八尾市良基町1丁目97、98、99、100-1	27212	37	343732	1353638	20020910	13.53		共同住宅建設に伴う遺跡確認調査		
良基遺跡	八尾市良基町1丁目31番3	27212	37	343736	1353657	20020924	8		教会施設に伴う遺跡確認調査		
中田遺跡	八尾市八尾木北1丁目94番1、94番2、95 番	27212	38	343642	1353653	20020529	8		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
花園山遺跡	八尾市花園寺6丁目1番地	27212	77	343817	1353852	20020902-03	21.6		大学キャンパス整備(大学各施設工事)に伴 う遺跡確認調査		
水堀遺跡	八尾市水堀町2丁目93番地9番	27212	42	343720	1353807	20020601	27		農業栽培用地造成に伴う遺跡確認調査		
水堀遺跡	八尾市水堀1丁目122番-123番	27212	42	343751	1353820	20020806	9		危険建築に伴う遺跡確認調査		
八尾市遺跡	八尾市若林町2丁目5番	27212	67	343552	1353516	20020527	16		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
八尾市遺跡	八尾市若林町2丁目10番、12番、13番、15 番	27212	67	343529	1353517	20020709-11	28		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
鳥居遺跡	八尾市志紀町3丁目120番、172番、217 番、218番	27212	71	343531	1353711	20020530	8		分譲住宅建設に伴う遺跡確認調査		
鳥居遺跡	八尾市志紀町3丁目180番、181番	27212	71	343531	1353705	20020819	48		共同住宅建設に伴う遺跡確認調査		

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1 桅松遺跡	集落	平安時代 律令時代	溝	瓦器	
2 桅松遺跡	集落	時期不明	溝	土師器 陶磁器 瓦	
3 老原遺跡	集落	奈良時代	—	土師器	
4 太田川遺跡	集落	弥生時代 古墳時代	土坑	弥生土器 土師器	
5 太田川遺跡	集落	弥生時代	遺物包含層	弥生土器	
6 太田川遺跡	集落	時期不明	—	—	
7 恵智遺跡	集落	時期不明	自然河川	弥生土器	
8 恵智遺跡	集落	時期不明	—	—	
9 恵智遺跡	集落	時期不明	—	—	
10 安音寺遺跡	集落	縄文時代 平安時代	落ち込み	弥生土器 須恵器	
11 木の本遺跡	集落	平安時代	柱穴 土坑	黒色土器 土師器 瓦	
12 久宝寺遺跡	集落	時期不明	—	—	
13 久宝寺遺跡	集落	時期不明	—	—	
14 久宝寺遺跡	集落	古墳時代	土坑	弥生土器 土師器 須恵器	
15 恵川遺跡	集落	時期不明	—	—	
16 郡川東塚古墳	山塚	古墳時代	横穴式石室 無縫石	埴輪	
17 小坂合遺跡	集落	古墳時代	溝	土師器、須恵器	
18 成法寺遺跡	集落	弥生時代 平安時代	遺物包含層	弥生土器 土師器 黒色土器 律令時代	
19 御宮寺遺跡	集落	弥生時代 古墳時代	遺物包含層	弥生土器 墓輪 須恵器 土器	付近に古墳あるいは埴輪窯の存在が示唆される。
20 神宮寺遺跡	集落	時期不明	—	—	
21 太子堂遺跡	集落	平安時代	自然河川	瓦器	
22 高安古墳群	古墳	古墳時代	古墳	土師器 須恵器 石器	
23 高安古墳群	古墳	時期不明	土坑	—	
24 高安古墳群	古墳	古墳時代	—	—	古墳測量調査
25 東郷遺跡	集落	古墳時代	土坑	古式土師器	
26 東郷遺跡	集落	時期不明	土坑 溝	—	
27 中田遺跡	集落	時期不明	—	—	
28 花園山遺跡	集落	時期不明	—	—	
29 水越遺跡	集落	時期不明	—	—	
30 水越遺跡	集落	時期不明	—	—	
31 八尾南遺跡	集落	古墳時代	—	古式土師器	
32 八尾南遺跡	集落	弥生時代	土坑	弥生土器	
33 弓削遺跡	集落	時期不明	溝	土師器	
34 小幡遺跡	集落	弥生時代	遺物包含層	弥生土器 須恵器	

八尾市文化財調査報告48
平成14年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書

発行日 2003年3月31日

編集・発行 八尾市教育委員会

〒581-0003 八尾市本町1-1-1

TEL(0729)24-8555 (直通)

印 刷 (株)近畿印刷センター

